

2020年度
総合資料



一般社団法人
一関青年会議所

JCIクリード

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;

That government should be of laws rather than of men ;

That earth's great treasure lies in human personality ; and

That service to humanity is the best work of life

JCI Mission

To provide development opportunities

that empower young people to create positive change.

JCI vision

To be the leading global network of young active citizens.

J C宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれ J A Y C E E は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じくする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北 J C 宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

J C（青年会議所）とは

青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った20歳～40歳までの指導者たらしとする青年の団体です。人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意思によりその居住する各地域の青年会議所に入会することが出来ます。

全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京・千代田区にあります。また、アメリカ・セントルイスには国際青年会議所（JCI）事務局があります。現在、132の国及び地域に119国家青年会議所（NOM）を数え、165,000人（2015年11月現在）が国際的な連携を持って活動しています。

日本青年会議所の綱領には、青年会議所の行動理念と目標を明確に表現しています。創立以来の「三信条」は、JC運動の歴史を追って具体化され、青年会議所運動とは、「指導力開発（LD）と社会開発（CD）」であるとも言われてきました。その後、JC運動の基軸は「自らに活力と知力を兼ね揃え積極果敢に社会改革運動を実践できる人間」であるとの考えから「人間力開発」も必要であるとし、日常の活動の場を通じて、我々自身を開発し、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所なのです。

J C三信条

トレーニング＝個人の修練
サービス＝社会への奉仕
フレンドシップ＝世界との友情

1950年5月1日にJCの行動綱領としてこの三信条が採択されました。JC運動は若い人々が集まって自己啓発・修練を行う場であり、培われた力を用いて地域社会にサービス（奉仕）することであると示されました。ただし、上記に記載されたフレンドシップ（友情）とは違う意味で、会員全員、同志を貫く友情があるということは言うまでもありません。

なお、これらの言葉以外にも Jaycee を表す言葉として、「英知と勇氣と情熱」と表現されることが多いが、この言葉は下記の文節から採用されたとされている。

英知「変えていくものと残すもの、その2つを見分ける英知を我に与えたまえ」
勇氣「変えるべきものを変える、チャレンジする勇氣を我に与えたまえ」
情熱「変えてはならないものを受け入れる、その冷静さを我に与えたまえ」

目 次

■2020年度基調編

理事長所信	pg. 7
スローガン、基本理念、基本方針	pg. 10
組織図	pg. 11
2020年度出向者	pg. 12

■事業計画

夏まつり委員会	pg. 13
組織強化委員会	pg. 15
青少年育成委員会	pg. 17
65周年実行委員会	pg. 19
事務局、監事	pg. 21
出向者	pg. 23

■2019年度報告編

理事長報告	pg. 26
会務報告	pg. 28
組織図	pg. 41

■事業報告

委員会事業報告	pg. 42
出向者報告	pg. 50
会員移動報告	pg. 53

■資料編

pg. 54

基 調 編



一般社団法人一関青年会議所 第65代理事長 平間 正宏

はじめに

本年一関青年会議所は、65年目の節目を迎えます。

日本の青年会議所の誕生は、戦後の焼け野原の中『新日本の再建は我々青年の仕事である。』という志を胸に抱いた青年たちの行動により、1949年に東京青年会議所が設立されました。共に向上しあい、社会に貢献しようという志と思いは全国に広がり、約34,500人のメンバーが地域の課題に向き合い、運動をしております。青年会議所の特色として、生い立ちや業種などにとらわれることなく構成されており、世界には約160,000人の仲間がいる国際的な団体であり、地域の課題解決に向けた運動を日々展開しています。

一関青年会議所は盛岡青年会議所の支援を受け、1955年10月に全国で78番目の青年会議所として誕生いたしました。今日までの64年間は、決して平たんな道ではなく、先輩諸兄の運動で築いた信頼と実績の基に、今日の運動や活動ができていることを私たちは忘れてはいけません。現在、一関青年会議所は4年未満のメンバーが過半数であり、今までの運動やその思いを今一度認識し、これからの未来へ繋がる1年となるよう邁進してまいります。

地域が抱える問題と未来への行動

一関地域は、消滅可能性都市という予測が出ています。この地域の未来を考えた時、私たちは行動を起こさなければなりません。多くの地域が、都市部への人口流出、少子高齢化、都市部との所得格差など同様の問題を抱えています。しかし、生活をしている私たちは、地域が抱える問題に悲観することなく向き合わなければなりません。それが、この地域で住み暮らし、育ててもらった私たちの果たすべき責任だと考えています。

私も、学生時代には都市部へ行きたいという思いを持っていました。都市部には若者をひきつける魅力があり、行きたいと思う気持ちを持つことは悪いことではありません。この地域に残る私たちは、若者の都市部への流出を非難するのではなく、その若者が戻って来たい、この町に住み暮らしたいという希望が持てる地域を作ること

が必要です。都市部で成長した若者が地域に戻ってきたとき、この地域の未来へ力強い支えとなります。その未来を私たちは描かなければなりません。子どもたちが誇れる故郷、戻ってきたくそんな故郷を作り、地域で育った誇りと希望を持ってこれからの地域の担い手になってもらいたい。

私は、住み暮らす若者の増加や生産年齢人口を増やすことが、この地域が抱える課題解決に繋がると考えます。地域の皆様と共に、地域のことを他人事と捉えず、自分のことと捉え本年の運動に展開します。

希望にあふれた地域のために

青年会議所との出会いにより、地域の青少年育成について考える機会を得ることができました。私には大切にしている子どもがいます。私の子どもだけではなく、地域に住み暮らす子どもたちの成長と希望溢れる未来を描いてもらうために、何ができるのかを考えるようになりました。子どもたちは地域の未来を担う宝です。

一関青年会議所では、過去に一関市内の高校生を対象に就職と進学のアナケートを実施いたしました。現在の高校生が進路をどのように考えているのか、この地域の担い手の確保や地元に着定してもらうためには何が必要なのかを把握し、学生と企業の架け橋となるための事業を行いました。アナケートからは、この地域の仕事がない、やりたいことが見つからない、など地域の仕事が伝えられていない現状を知りました。若者の都市部への流出や、進学で地域を離れたUターンも少なく、仕事があっても担い手が不足しているという売り手市場になっており、人員の確保や入社しても3年程度で退社してしまうという問題を抱えています。進学を考えている学生は、やりたいことがないため、何となく大学へ進学するなど、将来のことに向き合えていない現状がありました。

子どもたちが将来について考えていないのが悪いと嘆くのではなく、現状を知っている私たちが、地域の仕事について考える機会や学ぶ場を提供することが必要です。自分が育ち家族が住み暮らすこの町で、働きたい、この仕事がしたいと自分の将来に責任と自覚をもった地域の担い手となれる青少年育成を行います。

地域の継承への希望

一関地域は市町村合併により地域の祭りが増え、地域に根差した歴史と伝統を繋げる多彩な祭りがあります。子どもの頃、胸を躍らせた一関夏まつりも人々に活力と楽しさを与える地域を代表する祭りです。しかしながら、商店街の衰退や担い手不足に伴う七夕飾りの減少、少子化による地域住民の参加や出店者の減少などの問題を抱えております。祭りは誰もが楽しめ、参加できるものであり、地域の発展と活性化に必要不可欠なものです。同時に、若者の地元愛の醸成にも繋がるととても大切な町の魅力です。

この地域に暮らし、祭りに参加している私たちだからこそ、祭りの現状と向き合い、これからこの地域を担う若者や今までの祭りを経験している幅広い年齢層の人々が祭りに抱いている思いを知り、後世へと繋げられる祭りとしなければなりません。

私たちが主管している二代目時の太鼓大巡行は、迫力のある音色と活気あふれる声で、一関の重要な歴史文化の継承と地域住民への活力に繋がっています。毎年多くの子どもたちと地域の皆様、関係諸団体の協力に支えられ開催しています。二代目時の太鼓大巡行は、一関青年会議所唯一の継続事業であり、本年で44回目を数えます。先輩諸兄が続けてこられた地元愛の醸成と歴史文化の継承のための運動です。本年も多くの市民の皆様のご協力のもと、一関の魅力と貴重な歴史を次代へ繋げる重要な運動として継承します。

青年会議所をより楽しみ自己成長の機会となるために

一関青年会議所は、多くの気づきと学びを提供してくれる場所です。私は、共に活動する仲間たちと切磋琢磨し、組織の一員として成長させていただきました。人との繋がり、思考だけではなくコミュニケーション能力や思いやりなど多くのことを学ぶことができ、自己成長の機会と刺激を貰えます。共に活動する仲間との出会いにより、この地域が抱える課題を自分のことと捉えられる機会となりました。

私たちは年会費を支払い、その会費で地域の課題解決のための事業や運動を行っていますが、現在のメンバー

の参加状況は約60%程です。個々に事情や予定はありますが、学ぶ機会や時間は平等に与えられております。参加しなければ青年会議所にどんな学びや成長の機会があるのか、また、事業を構築した思いや背景は伝わりません。地域の課題に向き合うと共に、メンバーに参加してもらえる事業や仕組みと行動を取っていかなければなりません。メンバーが切磋琢磨し、積極的に事業や例会に参加することで、運動の楽しさや自己成長が地域へ伝播し、会員拡大や地域の方々からの信頼性にも繋がります。メンバー全員が参加する機会を創出し、その貴重な意見や考えを運動に反映させ、青年会議所の魅力を一人でも多くの人に認識してもらい、共に活動する仲間を増やすことで地域の課題解決をより推進してまいります。

私たちの運動がより良い運動となり、この地域の明るい豊かな社会の実現に繋げるために、自己成長と自己研鑽を通じて、確固たる組織力の強化と会員拡大にメンバー一丸となり取り組みます。

持続可能な社会への希望

私たちがより良い社会、便利な社会を求めた技術の進歩には、その時代のことだけではなく『持続可能な開発』がより求められる社会となることを認識しなければなりません。

私たちの国は、先進国として経済のグローバル化、学校教育の課題、少子高齢化や都市一極集中による地方の衰退、近年の温暖化に伴う甚大な自然災害と気温の上昇など様々な問題を抱えております。その問題は私たちの国や地域だけではなく、全世界にその影響を与えています。世界組織である青年会議所に所属している私たちは、その問題を他国の問題と捉えず向き合わなければなりません。その問題解決の一つとして、SDGs『持続可能な開発目標』があります。これは、2015年に国連サミットで採決された、2030年までに達成する17のゴールとそれに伴う169のターゲットから構成されており、地球上の誰一人として取り残さないことを約束する活動であり、日本の青年会議所は連携と協力をしています。一関地域の誰もが希望を持てる地域となるよう、私たちの運動に取り入れます。

結びに

『修練』『奉仕』『友情』の3信条のもと、この地域の明るい豊かな社会の実現に向け、本気で運動をする団体が青年会議所です。私たちは、みなさんと同じ時間の中で、仕事や家庭、趣味などと同じように青年会議所活動をしております。私たちが活動できるのは、社員の皆さんが仕事を支えてくれている、家族が家庭を支えてくれている、共に活動してくれる仲間がいる、ここまで青年会議所の運動を紡いできていただいた先輩諸兄がいる、地域の皆様が私たちの活動にご協力やご支援をいただいているからです。私たちは多くの人たちに支えられ青年会議所活動ができていることを忘れてはいけません。そのために、地域の課題を解決するのは私たち青年の責務という覚悟を持ち、自己成長の機会に貪欲にならなければなりません。

是非、地域の皆様には、私たちの活動に耳を傾け、目を向けてください。一関青年会議所は、地域を担う青年経済人の成長と地域の皆様に気づきや学びの機会を提供できるよう約束をいたします。

私たちの組織は単年度制であり、地域の問題解決の結果がすぐには出ないことも多くあります。しかし、私たちが行っている活動や運動は、必ずこれからの地域の未来へ繋がります。次代を担う人々へ希望を与えられる地域となるように共に活動し、青年会議所が目指す、明るい豊かな社会の実現の確実な一歩に繋げるための運動をしよう。

その運動の先には、まだ見ぬ希望が必ずあります。

一関青年会議所は、この地域の希望と可能性を信じ、未来のために私たちが今できる運動を1年間行っており、まいります。

本年も、皆様のご理解とご協力を何卒宜しくお願いいたします。

【スローガン】



～地域の未来のために今できることを～

【基本理念】

地域に根付く若者が増え、夢と希望が溢れる持続可能な地域の実現

【基本方針】

これからの地域を担う青少年の育成

未来へ繋がるまつり事業と二代目時の太鼓大巡行の運行

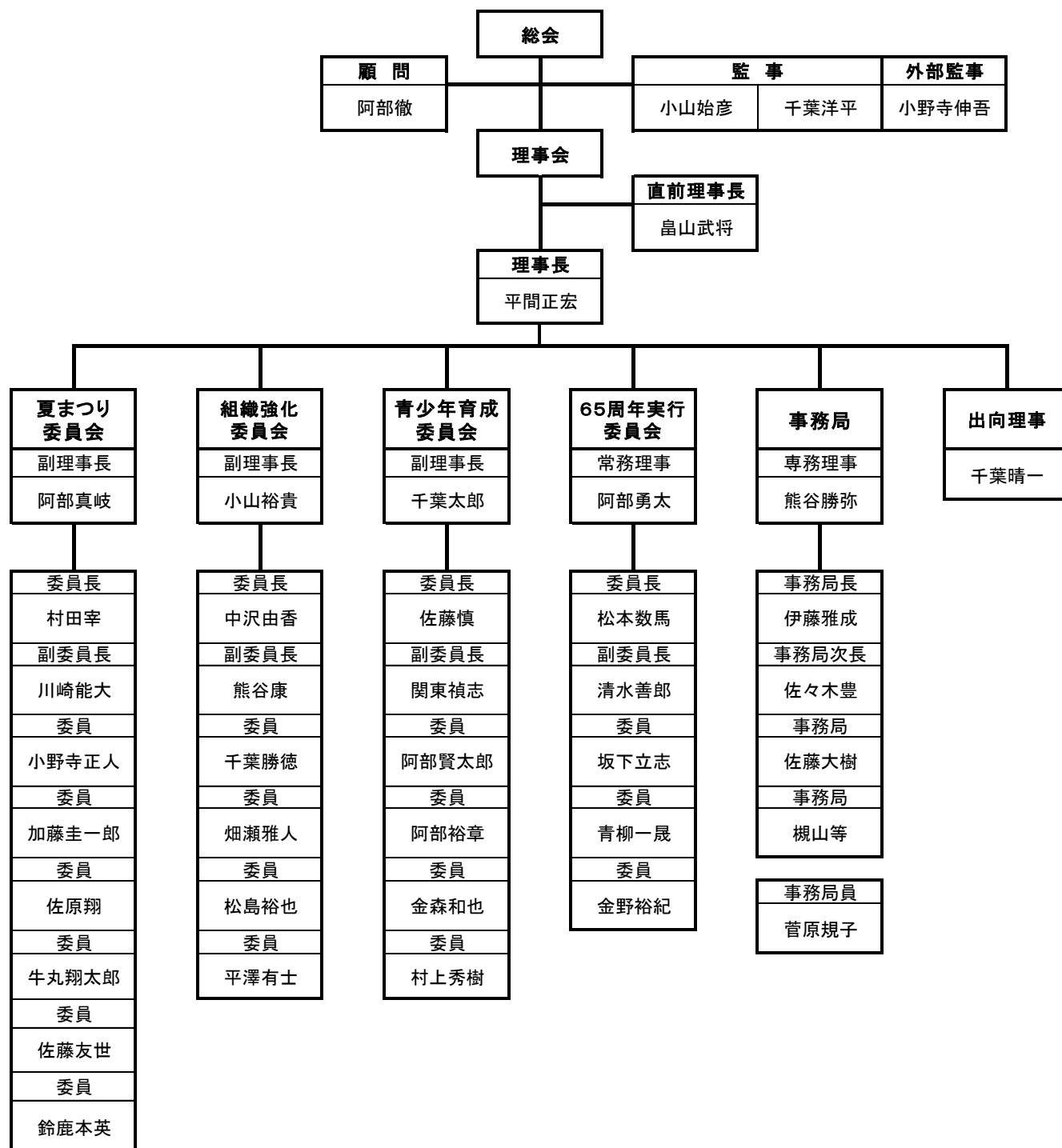
メンバーの資質向上と組織力強化

これまでの運動に敬意を持ち、未来へ継承する周年事業

運動をより推進するための会員拡大

一般社団法人 一関青年会議所

2020 年度組織図



2020年度 日本青年会議所・東北地区・岩手ブロック協議会
委員会委員・ゼミナール委員・アカデミー塾生

◆日本青年会議所

国際ビジネス推進会議

委 員 小山 裕貴 君

◆東北地区協議会

・岩手ブロック担当

副 会 長 阿部 徹 君

・広域連携推進委員会

統括幹事 坂下 立志 君

・東北ゼミナール委員会

委 員 千葉 太郎 君

・広域連携推進委員会

委 員 阿部 勇太 君

◆岩手ブロック協議会

・岩手ブロック協議会

会 長 阿部 徹 君

・岩手ブロック協議会

運営専務 千葉 晴一 君

・事務局

事務局長 千葉 洋平 君

・事務局

事務局次長 阿部 裕章 君

・事務局

事務局次長 清水 善郎 君

・岩手の未来創造委員会

委 員 伊藤 雅成 君

・JC運動発信委員会

委 員 阿部 賢太郎 君

・連携推進委員会

委 員 佐々木 豊 君

・LOM支援委員会

委 員 熊谷 勝弥 君

・総務広報委員会

委 員 阿部 真岐 君

・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 平澤 有士 君

・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 村上 秀樹 君

・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 橋場 智也 君

・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 佐藤 和昭 君

・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 高橋 亮 君

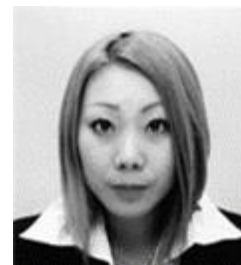
・いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾 生 菊池 亮 君

< 2020年度 委員会事業計画 >

■ 夏まつり委員会

担当副理事長 阿部 真岐



今年夏まつり委員会の副理事長を務めさせていただく事となりました。夏まつりは、地域の活性化に繋がる大切な行事だと感じております。その中で、委員長、委員会メンバーが、地域の未来に繋がる夏まつり事業を行えるよう方向性と、確かな目的達成意識を持てるよう、今年1年副理事長として、全うして参ります。

また、一関青年会議所は65周年という大事な節目の1年になります、その中で、今までの歴史に感謝と敬意の気持ちを持ち、会員として恥じぬよう活動をすると共に、今後も一関青年会議所が地域に必要とされる団体として、一会員として活動してまいります。

夏まつり委員会事業計画書



担当委員長
村田 宰

担当副理事長	阿部 真岐
担当委員長	村田 宰
担当副委員長	川崎 能大
担当委員	加藤 圭一郎
担当委員	佐藤 友世
担当委員	佐原 翔
担当委員	小野寺 正人
担当委員	鈴鹿 本英
担当委員	牛丸 翔太郎

○ 委員会スローガン

Re:make

○ 基本方針

【背景】

まつりは地域の発展と活性化に必要不可欠な手段であるものの、商店街の衰退や七夕飾り、出店者の減少などの地域の現状と向き合い、未来に繋げるための課題解決が求められています。

【方針】

- ・現状のまつりの課題を捉える
- ・一関の夏まつりを未来へ繋げるための事業を行う

○ 基本計画

- ・未来へ繋がるまつりにするために地域の現状や町の想いと向き合います
- ・参加してくれた子どもたちが将来担ってくれるような二代目時の太鼓大巡行の運行をします
- ・共に地域の未来を考えていく会員の拡大を実践します

○ 抱負

今、まつりを実行する立場になった私たちは、子どもたちに楽しい夏まつりの思い出を残してもらえるような事業を展開し、そして、その記憶が一関の未来に繋がるものと信じ、メンバー一丸となり邁進してまいります。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管			○					○				

■組織強化委員会

担当副理事長 小山 裕貴



この度、組織強化委員会 担当常任理事長を仰せつかりました。

2012 年入会以来、青年会議所活動や運動を通じ、様々な経験をさせていただいております。

諸先輩方やメンバーから学ばせていただいた多くのことを伝えることで、自己成長やメンバーの資質向上に繋げる一助となるように委員会をサポートしてまいります。

その結果、青年会議所の魅力を発信し、一人でも多くの仲間を巻き込んでいきたいと思っております。

組織強化委員会事業計画書



担当委員長
中沢 由香

担当副理事長	小山 裕貴
担当委員長	中沢 由香
担当副委員長	熊谷 康
担当委員	千葉 勝徳
担当委員	畑瀬 雅人
担当委員	松島 裕也
担当委員	平澤 有士

○ 委員会スローガン

Let`s Together!!

○ 基本方針

【背景】

昨今、一関青年会議所の会員数は増加傾向にあります。

しかし、志を持ち入会したにも関わらず、入会年数の浅いメンバーの参加率は低い状況にあり、このままでは退会に繋がってしまう原因の一つになります。

多くのメンバーが参加しやすい環境を作ることが必要です。

【方針】

青年会議所活動に積極的に参加することで、学びの機会を提供する

○ 基本計画

青年会議所活動への参加動機を調べる

多くのメンバーが参加し学びを得る事業

各種大会やブロックの活動を周知・参加促進を行う活動

卒業生に感謝の気持ちを伝える事業

会員拡大の実施

○ 抱負

青年会議所の活動を通じて、学びを得ることは多くあります。

「参加すれば学べる」とメンバー1人ひとりが想いを持ち、絆を深められるような事業を行いたいと思います。1年間よろしくお願いいたします。

スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会主管					○							○

■ 青少年育成委員会

担当副理事長 千葉 太郎



本年副理事長の職をお預かりいたしました千葉太郎です。

副理事長という職も、青少年委員会に携わることも初めてですが、1年間委員長や委員会メンバーとともに駆け抜けたと思います。

オレたちはいいチームだ！

青少年育成委員会事業計画書



担当委員長
佐藤 慎

担当副理事長	千葉 太郎
担当委員長	佐藤 慎
担当副委員長	関東 禎志
担当委員	阿部 賢太郎
担当委員	阿部 裕章
担当委員	金森 和也
担当委員	村上 秀樹

○ 委員会スローガン

将来への紡ぐ地域の魅力

○ 基本方針

【背景】

一関市は少子高齢化及び人口減少の進行が見込まれています。青少年を地域の魅力に目を向けさせず漠然と都市部へ流出させてしまうことは、地元企業の労働力の確保に支障をきたします。また、若い人材の大幅な減少は地域活力の低下など多方面に大きな影響を及ぼすことに繋がります。子どもの将来像に「地元で暮らす」という選択肢を増やすことが必要です。

【方針】

仕事を通じて地域の魅力を発見してもらう機会を提供する。

○ 基本計画

- ・青少年が自身の将来像を考える 9 月例会の企画・運営
- ・新たな繋がりを活かした会員拡大の実践

○ 抱負

私が自分の子どもに将来なりたい仕事を聞いた際、どんな仕事があるかわからないと告げられ、自分の将来を想像出来ない我が子に危機感を抱きました。私は、地元で暮らす父親の背中を見て自分の将来像を重ねておりました。若者が漠然とした理由で地元から出ていき生産年齢人口が減少する中、私たち地元で暮らす大人が、子どもに「地元で暮らす」という選択肢を増やす必要があります。仕事を通じて地域の魅力を一人でも多くの子どものに伝え、地域の生産年齢人口の減少に少しずつではありますが歯止めをかけることを目的とし 1 年間頑張ります。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管									○			

■65 周年実行委員会

担当常務理事 阿部 勇太



今年度、65 周年実行委員会の担当常任を務めるにあたり、先輩方が築き上げた歴史をメンバーと共に認識し、65 周年という節目の年に活動できることに感謝の気持ちを持って、皆で創り上げる 65 周年を目指していく所存です。1 年間、宜しくお願いいたします。

6 5 周年実行委員会事業計画書



担当委員長
松本 数馬

担当常務理事	阿部 勇太
担当委員長	松本 数馬
担当副委員長	清水 善郎
担当委員	坂下 立志
担当委員	青柳 一晟
担当委員	金野 裕紀

○ 委員会スローガン

Be Together

～共に学び 共に感謝しあう輪を広げよう～

○ 基本方針

【背景】

創立 65 周年という節目に、過去の事業を振り返ると共に、次の世代に向けた情報発信と運動の理解を深める必要があります。また、今後も青年会議所の運動が継続的かつ効果的に実施されていくために、支えてくれる家族や会社の従業員、同僚・地域などに対し、我々の運動についての理解を深めていただく必要があります。

【方針】

65 年の運動の歩みを振り返ると共に、次の世代に向けた情報発信を行う。

活動を支えてくれる家族や仲間・地域に対し、気づきの提供と感謝を示す。

○ 基本計画

- ・ 65 周年記念事業の実施
- ・ 65 周年記念式典及び祝賀会の実施
- ・ HP や SNS 等を活用した情報発信の実施
- ・ 会員拡大の実施

○ 抱負

私たちが住み暮らす一関市は、人口減少が進んでいます。一関青年会議所は 65 年という節目を迎え、この活動を維持発展させていくためには様々な工夫が求められています。だからこそ地域の皆様や先輩諸兄の皆様と共に、65 年の軌跡を振り返ると同時に、私たちは 次の世代へのバトンを引き継いでいくことが求められています。

私は、一関青年会議所の活動を支えてくれている一番の理解者は、身近な存在である家族ではないかと思っています。その家族に対し、65 年の活動や現在課題となっている事象に対しての気づきの場を提供することで、活動への理解を深め、さらには活動を支えてくれる存在になってくれるのではないかと思います。共に学び、共に感謝しあう輪を広げていきましょう。

スケジュール	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
例会主管						○				○		

■事務局

専務理事
熊谷 勝弥



事務局長
伊藤 雅成



事務局次長
佐々木 豊



事務局
佐藤 大樹



事務局
槻山 等



■ 監事



監 事
小山 始彦

常任理事会や理事会等で今まで監事講評を聞いてまいりましたが、監事という役職の難しさと初めての役職ということで不安と緊張が混ざっています。私が思う監事という役職は、理事長や直前理事長が言えない、言いにくいことをしっかりとメンバーに伝える重要な役職だと認識しております。この一関青年会議所の成長と気づきを与えられるよう1年間、監事という役職に向き合い、時には厳しく、良いことはしっかりと時代へ繋げ、この一関青年会議所のモチベーションを上げる1年となるよう、3名の監事と連携してこの組織のことを考え役職を努めてまいります。最後の1年となりますが集大成ということで、今まで学んできたものをしっかりとLOMの未来に繋がられるよう、邁進いたします。



監 事
千葉 洋平

この度、2020年度一関青年会議所の監事を仰せつかりました。
監事として組織の在り方、すべきことを考えながら職責を全うしたいと思います。



外部監事
小野寺 伸吾

2018年12月31日に一関青年会議を卒業させていただきましたが、この度外部監事として平間理事長のもと一関青年会議に再び携わることとなりました。この機会をいただいたメンバーには感謝と、与えられた責務に対し、身の引き締まる思いです。

65周年を迎える本年、微力ではございますが一関地域が希望を持てる地域にするよう外部の目線で役割を全うする所存です。

1年間よろしくお願いいたします。

■公益社団法人日本青年会議所

東北地区岩手ブロック協議会 役員出向者



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
会長 阿部 徹

青年会議所は、社会開発と人づくりの団体であります。40歳までと限られた時間の中で青年会議所という組織を活用して、自分たちが住み暮らす町をより良くしていくには、自らを成長させていくことが重要だと思います。

青年会議所の4つの機会をうまく活用し、人が成長し、会社や地域が成長していかなければなりません。私は、岩手ブロック協議会会長という職に挑戦させていただくにあたり、今まで経験したことが無いことへの不安とこれから事業や運動を展開していく期待感に包まれております。

2020年度は、岩手ブロック協議会は50年という節目の年を迎え、脈々と受け継いできた先輩たちの信用と実績を守っていかなければなりません。それと同時に、岩手ブロック協議会は岩手県内に13ある青年会議所の支援や有益な情報を提供していく立場にあります。

岩手県内の青年会議所が各地域でより良い事業を展開し、地域にインパクトを与えていけるような活動をしていきます。

「全ての人々が笑顔で生きがいを持てる岩手の実現」を基本理念に掲げ、日本JC本会との運動の連携と推進、また岩手ブロック協議会独自の事業、運動を展開して、メンバーの成長や地域の発展に繋いでいけるような活動をしてまいります。

Growth！！ 持続可能な岩手の実現へ

1年間よろしくお願いします。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
運営専務 千葉 晴一

2020年度公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会運営専務として出向させていただきます千葉晴一と申します。3年連続で役員出向という基調な経験をさせていただきますので、1年間この職を全うできるよう全力で取り組んでいきたいと思っております。また、岩手ブロック協議会が魅力ある組織だなと感じていただけるよう日々運営に尽力していきたいと思っております。

どうぞ1年間よろしくお願いいたします。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
事務局長 千葉 洋平

この度、公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会 2020 年度事務局長として出向させていただきます。

事務局長という大役を仰せつかり、運営専務、事務局次長と協力し邁進していきたいと思います。青年会議所としてラストイヤーのこの年に、このような経験をさせていただけることに感謝し、職務を全うしたいと思います。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
事務局次長 阿部 裕章

2020 年度岩手ブロック協議会事務局次長として出向させていただきます。
同じく一関青年会議所から会長として出向される阿部徹君をはじめとする岩手ブロック協議会の運営に、微力ながらお役に立ちたいと思います。
また、県内各地から出向される皆様と関わることで新しく得られるものを、一関青年会議所でも共有できるよう学んでまいりたいと思います。



公益社団法人日本青年会議所
東北地区 岩手ブロック協議会
事務局次長 清水 善郎

2020 年度岩手ブロック協議会事務局次長として出向させていただきます、清水善郎と申します。ブロック会長輩出 LOM の事務局メンバーとして、岩手ブロック協議会の活動を支える力になれるよう頑張っていきます。
また出向で得た経験や情報を出来るだけ LOM に伝え、ブロックと LOM の連携に少しでも貢献出来るよう努めてまいります。
どうぞ1年間よろしくお願いいたします。

報 告 編

〈2019 年度理事長報告〉



一般社団法人一関青年会議所
2019 年度理事長 畠山 武将

2019 年度の一関青年会議所の運動と活動に対し、多くの関係諸団体や市民の皆様の協力と理解をいただきましたことに感謝申し上げます。

「白首窮経」のスローガンのもと、学びをテーマに運動を展開してまいりました。

本年、一関青年会議所では大きく 5 つの事業を展開しました。

まず一つ目は地域団体交流事業です。各地域に住む同世代の働き手と、地域団体の活動を知り、交流を持つことを目的としました。昨年、一昨年と、ビジネス交流会と、また違った形で、多くの参加者のご協力で開催できたことに感謝申し上げます。地域の活性化に対して前向きな多くの仲間が参加してくれたことにより、多くの方に青年会議所を知っていただく機会となりました。

二つ目は地域の魅力を伝える担い手育成事業です。一般市民を募り地域活性化においてインバウンド観光の振興が有効であることを再確認していただきました。そのために外国人在住者 9 名を外部協力者として参加いただき一般市民 25 名に対しインバウンド観光案内体験を実施いたしました。今回の事業を行うことによって、インバウンド拡大が地域活性化にとって重要であることを参加者に意識していただき、今後の地域活性化につながる効果があったと考えます。

三つ目は夏まつり事業です。本年はまつりに参加する楽しさや地域文化に触れることにより、郷土愛を醸成し地域文化の担い手を増やすことを目的としました。昨年に引き続き、地元の高校生を巻き込むことで地域文化継承の観点からも目的が果たせられ、一関市の更なる賑わい、郷土愛を醸成していくため、時の太鼓の歴史、青年会議所が行ってきた歴史双方を、次の世代へと繋げたと確信しました。

四つ目は新たな気づきを促す講演会事業です。多くの可能性を持つ高校生が、自身の成長に向けて主体的に目的や目標を設定し、行動する意識を持ってもらうことを目的としました。学校教育にも関わるスポーツを、実績を踏まえて題材とすることで高校生、教員の興味関心を誘うという点において、先生方からも、高校生が予想以上によく聞いていたとお声をいただき、また公演中の様子からもそれが見られたことは良かったと思います。

そして、最後は、正しい人格の形成を促すための体験型の青少年育成事業です。他者への思いやりの心、自制心や規範意識、人間関係を形成する力の向上を目指し、規律、ルールを守ることの大切さを知っていただきました。そのために、外部協力者として自衛隊岩手地方協力本部一関出張所様のお力添えをいただき陸上自衛隊 岩手駐屯地内にて青少年育成事業を実施できました。自衛隊の方々にはこの場をお借りして誠に感謝申し上げます。自衛隊内で隊員の講話を聴かせていただき、時間を区切って活動したことにより、時間の大切さを改めて感じて

もらえた事業となりました。

結びとなりますが、本年1年間、学びの重要性を発信することができたのも、一関青年会議所メンバーの事業への本気の取り組みと協力があったものと確信しております。そして、事業を通して多くの方と関わり、たくさんの気づきと学びがありました。その全てへ感謝申し上げます。1年間、ありがとうございました。

〈2019 年度会務報告〉

2019年 1月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	新年交賀会リハーサル	ベリーノホテルー関	20:00～	メンバー
5	1月例会 新年交賀会 1月 定時総会	ベリーノホテルー関	8:30-19:30	メンバー
6	久慈青年会議所新年会	久慈グランドホテル	13:00-17:00	阿部徹、千葉太郎、千葉晴一、清水、牛丸
7				
8	北上青年会議所新年会	ホテルシティプラザ北上	18:30-22:00	畠山武将、阿部徹、小山始彦、千葉洋平、平間、千葉晴一、牛丸、小野寺裕香
9	陸前高田青年会議所新年会	キャピタルホテル1000	19:00-22:00	阿部徹、平間、阿部裕章、小野寺裕香、牛丸
10	第1回常任理事会	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
10	一関消防本部消防職員意見発表会	一関消防本部	13:00～15:00	畠山武将
11	水沢青年会議所新年会	水沢グランドホテル	18:00-21:00	畠山武将、阿部真岐、小山裕貴、千葉洋平、千葉勝徳
12	盛岡青年会議所新年会	盛岡グランドホテル	15:00-18:00	畠山武将、阿部徹、千葉洋平、小山裕貴、平間、牛丸
13	江刺青年会議所新年会	料亭新茶屋	17:30-20:30	畠山武将、小山裕貴、阿部裕章
14	花巻青年会議所新年会	ホテルグランシェール花巻	16:00-20:00	畠山武将、阿部徹、千葉洋平、平間、坂下
15				
16				
17				
17				
18	京都会議	京都市		畠山武将、阿部徹、千葉洋平、平間
19	京都会議	京都市		畠山武将、阿部徹、千葉洋平、平間
20	京都会議	京都市		畠山武将、阿部徹、千葉洋平、平間
21				
22	大船渡青年会議所新年会	大船渡温泉	19:00-22:00	小山始彦、千葉洋平、小野寺康、坂下、牛丸
23	一関商工会議所新年祝賀会	ベリーノホテルー関		畠山武将
24	第1回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
25				
25	第1回会員会議所会議	奥州市水沢	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
26	一関青年会議所OB会新年会	豊隆会館	18:30-21:00	畠山武将、阿部徹、千葉太郎、平間、清水
27	釜石青年会議所新年会	陸中海岸グランドホテル	15:30-19:00	阿部徹、阿部勇太、阿部裕章
27	陸中宮古青年会議所新年会	ホテル沢田屋	15:30-19:00	畠山武将、阿部賢太郎、清水
28	遠野青年会議所新年会	やなぎ屋	18:30-21:30	阿部徹、小野寺康、坂下
28				
28				
29	アカデミー壮行会	和酒Dining もんど	19:00-22:00	メンバー
30				
31	カシオペア青年会議所新年会	二戸パークホテル	18:00-21:00	阿部徹、小山裕貴、平間、清水

2019年 2月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3	岩手ブロック新春のつどい、アカデミー開校式	久慈グランドホテル	19:30-21:00	畠山武将、阿部徹、小山始彦、阿部勇太、千葉太郎、平間、千葉勝徳、阿部裕章、加藤圭一郎、千葉晴一、清水、牛丸、松本数馬、中沢
4	全国地ビールフェスティバルー関実行委員会総会	一関市民センター	14:00-15:00	畠山武将
5				
6	第2回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
7				
8	一関地区法人会青年部会新年会	ホテルサンルート一関	17:00-18:30	畠山武将
9	東北地区協議会ゼミナール開講式	仙台迎賓館 斎苑	13:00-15:00	畠山武将、平間
10	八幡神社 奉祝建国祭	八幡神社	10:00-12:00	畠山武将、千葉太郎、千葉洋平、清水
11				
12				
13				
14				
15	一関呑輝塾	豊隆会館	18:00-19:30	メンバー
16				
17				
18				
19	第2回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
20				
21	2月 定時総会	一関市民センター	19:00-19:30	メンバー
22	2月例会 第3回青年ビジネス交流会	豊隆会館	18:30-21:00	メンバー
23				
24				
25				
26	岩手日日文化賞贈呈式	一関文化センター中ホール	14:00～	畠山武将
27				
28				

2019年 3月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2	第2回会員会議所会議	花巻市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
3				
4				
5	倫理法人会モーニングセミナー	ホテルサンルート一関	6:00～7:00	畠山武将(講師)、小野寺康、千葉太郎、小山裕貴、清水
6	第3回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
7	地ビールフェスティバル第1回プロジェクト委員会	一関市民センター	10:00～	小山裕貴
8				
9	いわてJAYCEEアカデミー第1講座	盛岡市 櫻山神社参集殿	13:00～	メンバー
10	いわてJAYCEEアカデミー第1講座	盛岡市 櫻山神社参集殿		メンバー
11				
12	一関の新しい踊りを創作する会 幹事会	一関商工会議所本所	14:00～15:00	小山始彦
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19	一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議	一関市役所 会議室	13:30～15:30	千葉太郎
19	第3回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
20	3月例会 マナーアップ講座	一関市民センター	19:00～	メンバー
21				
22				
23				
24				
25				
26	第1回臨時理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
27				
28				
29				
30	第3回会員会議所会議	二戸市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
31				

2019年 4月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2	第4回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
3				
4				
5				
6	4月例会 第3回JCカップU-11少年少女サッカーいちのせきフェスティバル 1日目	一関サッカーラグビー場	6:30-16:00	メンバー
7	4月例会 第3回JCカップU-11少年少女サッカーいちのせきフェスティバル 2日目	一関サッカーラグビー場	6:30-16:00	メンバー
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17	一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会・総会	一関市役所	14:00～	畠山武将
18	田村神社例大祭	八幡神社 拝殿	10:00～	畠山武将
18	第4回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
19				
20				
21	一関青年会議所OB会観桜会、浜ちゃんカップ	古戦場	18:00～	メンバー
22				
23	日本JC会頭(鎌田長明会頭)公式訪問in一関	ベリノホテル一関	17:30-21:30	畠山武将、阿部徹、阿部真岐、小山始彦、小山裕貴、千葉洋平、千葉太郎、平間、加藤圭一郎、阿部裕章、阿部賢太郎、坂下立志、千葉勝徳、熊谷康、佐藤知世、松本数馬、村田幸、佐藤慎、川崎、松島、中沢、関東
24				
25	一関もち食推進会議 定例総会	一関市民センター	16:00-17:00	畠山武将
26				
26				
27	第4回会員会議所会議	奥州市江刺	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
28				
29				
30				

2019年 5月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7	第5回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
8				
9	一関夏まつり第1回事業部会	一関商工会議所	14:00～	千葉勝徳
10				
11				
12	一関夏まつり第1回総務広報部会	一関商工会議所	10:30～	千葉勝徳
13				
14				
14				
15				
16				
17				
18	いわてJAYCEEアカデミー第2講座	大船渡市	13:00～	メンバー
19	いわてJAYCEEアカデミー第2講座	大船渡市		メンバー
20	一関夏まつり第1回幹事会	一関商工会議所	15:00～	畠山武将、千葉勝徳
21				
22	第22回全国地ビールフェスティバル 第3回プロジェクト委員会	一関市民センター	16:00～	小山裕貴
22	一関地区法人会青年部定時総会	ペリーノホテル一関	17:30～	畠山武将
23	第5回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
24	一関市観光協会通常総会・懇親会	ペリーノホテル一関	16:00～	畠山武将
25				
26	5月例会 プロジェクトアドベン チャー・アクティブチームビルディング	山目市民センター	8:30-17:00	メンバー
27				
28	一関夏まつり実行(委)総会	世嬉の一酒造	17:00～	畠山武将
29				
30				
31				

2019年 6月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1	第5回会員会議所会議	陸前高田市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一、(オブザーブ)千葉洋平、平間、小野寺康、阿部裕章、千葉勝徳、清水、中沢、川崎、小野寺裕香、村田、佐藤慎、飯野
2				
2				
3				
4				
5				
6	一関の新しい踊りを創作する会第1回ワークショップ	一関市民センター	18:30～	小山始彦、関東
7				
8				
9				
10	第6回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
11				
12				
13				
14				
15	理事長杯ゴルフコンペ	一関カントリークラブ	9:00～	メンバー
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22	青年団体ソフトボール大会	川崎運動公園グラウンド	9:45-15:00	メンバー
23	カシオペア青年会議所 50周年式典	二戸パークホテル	14:30～	阿部徹、平間、千葉晴一、清水
24				
25	第6回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
26	第22回全国地ビールフェスティバル第4回プロジェクト委員会	一関市民センター	16:00～	小山裕貴
26	6月例会 考えよう未来の日本～自衛隊編～	一関市民センター	19:00-21:00	メンバー
27				
28				
29	岩手ブロック大会in江刺	えさし藤原の郷	10:00～	畠山武将、阿部徹、小山始彦、小山裕貴、阿部真岐、阿部勇太、千葉太郎、平間、千葉勝徳、阿部裕章、阿部賢太郎、加藤圭一郎、千葉晴一、清水、小野寺裕香、伊藤、松本敦馬、中沢、佐藤慎、佐藤知世
30				

2019年 7月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4				
5				
6	いわてJAYCEEアカデミー第3講座	北上市	10:00～	メンバー
7	いわてJAYCEEアカデミー第3講座	北上市		メンバー
8				
9				
10				
11	第7回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
12				
13				
14	まちづくりグランドデザイン策定100人委員会第2回ワークショップ	一関市民センター	10:00	阿部勇太
15				
16				
17				
18				
19				
20	日本青年会議所サマーコンファレンス、東北地区・岩手ブロックナイト	横浜市		畠山武将、千葉太郎、千葉洋平、小山裕貴、清水
21	日本青年会議所サマーコンファレンス	横浜市		畠山武将、千葉太郎、千葉洋平、小山裕貴、清水
22	第7回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会議メンバー
23				
24				
25				
26				
27	第6回会員会議所会議	大船渡市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
27	どろんこバレーin羽根折沢	大東町羽根折沢地内	12:00～	加藤圭一郎
28				
28				
29				
30	時の太鼓山車組み立て・神事	中里市民センター	10:00～15:30	メンバー
30	お天気まつり 7月例会セレモニー	石蔵クラストン	18:30-21:00	メンバー
31	第2回臨時理事会議	八幡神社 社務所	19:30～	理事会議メンバー

2019年 8月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2	一関夏まつり開会式、七夕まつり審査	大町	13:00～	畠山武将
3	8月例会 時の太鼓大巡行	中里市民センター～なのはなプラザ脇	8:00～21:00	メンバー
4	一関子供七夕みこし	一関文化センター～ 一関市役所～	8:00-11:30	メンバー
4	大関神輿祭出発式出席	一関文化センター	12:30～	畠山武将
5				
6				
7				
8				
9	第8回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
10				
11				
12				
13				
14	いわてJAYCEEアカデミー第4講座	花巻市	10:00～	メンバー
15	いわてJAYCEEアカデミー第4講座	花巻市		メンバー
16				
17				
18	まちづくりグランドデザイン策定100人委員会第3回ワークショップ	一関市民センター	10:00	阿部裕章、清水、阿部賢太郎
19	第1回一関地区かわまちづくり協議会	一関保健センター	15:30-17:00	畠山武将
20				
21				
22				
23				
24	第22回全国地ビールフェスティバルin一関 開会式	一関文化センター前広場	10:45～	小山裕貴
24	第7回会員会議所会議	宮古市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一
25				
25	岩手ブロック協議会懇親ゴルフコンペin宮古	宮古市 宮古カントリークラブ	9:40～	阿部徹
26	8月 定時総会	豊隆会館	18:50～	メンバー
27				
28	第8回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
29				
30				
31				

2019年 9月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1	7月例会 地域の魅力を伝えよう！インバウンド観光案内体験！	なのはなプラザ～平泉	8:00-17:00	メンバー
2				
3	一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会イベント企画等検討部会・広告協賛・飲食出店検討部会	一関市役所 会議室	10:00-12:00	畠山武将
4				
5				
6	東北青年フォーラムin能代	秋田県能代市		畠山武将、阿部徹、小山裕貴、平間、千葉晴一、小野寺裕香
7	東北青年フォーラムin能代	秋田県能代市		畠山武将、阿部徹、小山裕貴、平間、千葉晴一、小野寺裕香
8	東北青年フォーラムin能代	秋田県能代市		畠山武将、阿部徹、小山裕貴、平間、千葉晴一、小野寺裕香
9				
10	第68回一関夏まつり第3回事業部会	一関商工会議所	13:30-15:00	千葉勝徳
10	公共施設の施設保有見直し方針の策定に向けた市民との意見交換会	アイドーム	18:30-20:00	畠山武将
11	まちづくりグランドデザイン策定100人委員会第4回ワークショップ	一関市民センター	18:00～	阿部裕章、松本幸江
11	第9回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
12				
13				
14	一関地区かわまちづくりワークショップ第1回	あいぽーと	10:00～	畠山武将、阿部徹、平間
15	一関八幡神社例大祭	八幡神社	10:00～	平間
16				
17				
18				
19				
20				
21	第38回一関国際ハーフマラソン大会役員委嘱・開会式	ベリーノホテル一関	16:30～	畠山武将
22				
23				
24				
25	一関の新しい踊りを創作する会第2回ワークショップ	一関市民センター	18:30～	小山始彦、関東
25	岩手ブロック協議会 岩手ブランド発信～伝えよう感謝 広めよう魅力～	釜石市 釜石PIT	10:00～	阿部徹
26				
27	第9回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会メンバー
28	第8回会員会議所会議	北上市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一、(オブザーブ)千葉洋平、清水
28	岩手ブロック協議会 リカレント教育のすすめ	シティプラザ北上	17:00～	阿部徹、千葉洋平、清水、千葉晴一
29				
30				

2019年 10月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1	第2回一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会	一関市役所 会議室	14:00-15:30	畠山武将
2				
3				
4				
5				
6	江刺青年会議所創立50周年記念式典	ホテルニュー江刺 新館 イーズ	13:00～	畠山武将、阿部徹、平間、松本数馬
7				
8				
9	一関地区かわまちづくりワークショップ第2回	あいぽーと	19:00～	畠山武将
9	第10回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
10				
11	日本青年会議所 全国大会富山大会			阿部徹、千葉洋平、小山裕貴、小野寺康
12	日本青年会議所 全国大会富山大会			阿部徹、千葉洋平、小山裕貴、小野寺康
13	日本青年会議所 全国大会富山大会			阿部徹、千葉洋平 (台風のため出席できず)平間正宏、千葉晴一、清水、熊谷勝弥
14				
15				
16	まちづくりランドデザイン策定100人委員会第5回ワークショップ	一関市民センター	19:00～	阿部裕章、松本幸江
17	9月例会 気づきが変わる行動と未来	ベリーノホテル一関	10:30～	メンバー
18				
19	アカデミー第5講座および閉校式	ベリーノホテル一関	9:00～	メンバー
20	第10回会員会議所会議	一関市 ユードーム	9:00～	畠山武将、阿部徹、千葉晴一、(オブザーブ)千葉太郎、平間、阿部裕章、川崎
21				
22				
23	第10回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会議メンバー
24				
25				
26				
27				
28				
29	岩手ブロック協議会 第1回役員予定者会議	一関市民センター	19:00-22:00	阿部徹、千葉洋平、阿部裕章、清水、千葉晴一
30				
31	第3回臨時理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会議メンバー

2019年 11月

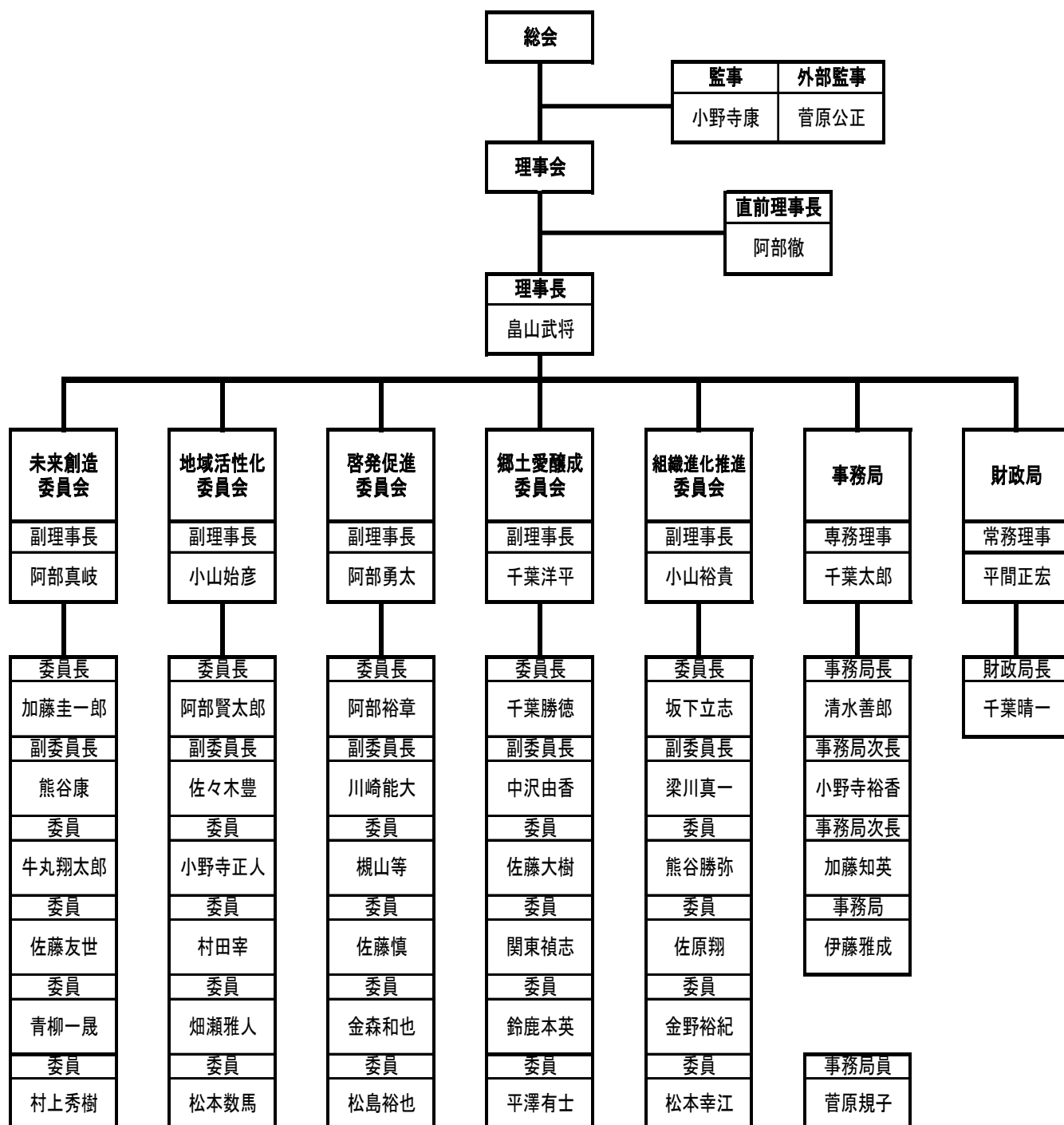
日	行事内容	場所	時間	対応者
1				
2				
3				
4	一関青年会議所OB会 ゴルフコンペ	一関カントリークラブ	9:00～	阿部勇太、佐々木豊、小山始彦
4	JCI 世界会議(～11/8)	エストニア		阿部徹、千葉洋平
5				
6	第6回一関はしご酒(後援)			
7				
8				
9	10月例会 見たい！行きたい！！自衛たい！！	陸上自衛隊岩手駐屯地 国立岩手山青少年の家	7:00～	メンバー
10	10月例会 見たい！行きたい！！自衛たい！！	陸上自衛隊岩手駐屯地 国立岩手山青少年の家	～17:00	メンバー
	一関青年会議所OB会 浜ちゃんカップ、いも煮会	ホテルサンルート一関	18:00～	畠山武将、阿部徹、平間、千葉洋平、清水、熊谷勝弥
11				
12	岩手ブロック協議会 第2回役員予定者会議	一関市民センター	19:00-22:00	阿部徹、千葉洋平、阿部裕章、清水、千葉晴一
13	第11回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
14				
15				
16	第10回会員会議所会議、役員謝恩会	久慈グランドホテル	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉洋平、阿部裕章
17	第1回会員会議所予定者会議	久慈グランドホテル	9:00～	阿部徹、千葉洋平、平間、阿部裕章、清水
18				
19				
20				
21				
22				
23	まちづくりグランドデザイン策定100人委員会 報告会	一関市民センター	10:00～	阿部賢太郎、清水、松本幸江
24				
24				
24				
25	第11回理事会議	一関市民センター	19:30～	理事会議メンバー
26	岩手県知事との意見交換会	盛岡市 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング	17:00～	畠山武将、阿部徹
27				
28	岩手ブロック協議会 JCI公式3コース	ホテルシティプラザ北上	9:00-17:00	阿部徹、千葉洋平、清水、千葉晴一
28	第2回一関地区かわまちづくり協議会	あいぼーと	13:30-15:00	畠山武将
29	若手職員とJCで語り合う20年後の未来	豊隆会館	18:05～	畠山武将、千葉洋平、小野寺康、坂下、清水、小野寺裕香、伊藤
30	11月例会 次年度アワード「一関青年会議所の組織強化～持続可能な活動のために～」	一関商工会議所3階 大会議室	14:00-18:00	メンバー
30	東北地区協議会 諸会議・卒業証書授与式	八戸市	9:30～	阿部徹、千葉晴一

2019年 12月

日	行事内容	場所	時間	対応者
1	東北地区協議会 諸会議	八戸市	10:00～	畠山武将、阿部徹、平間、千葉晴一
2				
3	第4回商工祭プロジェクト委員会	一関市役所 会議室	15:00～	平間正宏
3	岩手ブロック協議会 第3回役員予定者会議	盛岡市 岩手ブロック協議会事務局	19:00～23:00	阿部徹、千葉洋平、清水、千葉晴一
4				
5				
6				
7	卒業式リハーサル	一関市民センター	19:30～	メンバー
8	12月例会 卒業式	ベリーノホテル一関	10:30～18:30	メンバー
9				
10				
11				
12	第12回常任理事会議	一関市民センター	19:00～	常任理事会メンバー
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21	第2回会員会議所予定者会議	盛岡市	9:00～	阿部徹、千葉洋平、平間、阿部裕章、清水、(オブザーブ)畠山武将
21	第11回会員会議所会議、19年度・20年度ブロック合同懇親会	盛岡市	13:00～	畠山武将、阿部徹、千葉洋平、平間、阿部裕章、清水
22				
23				
24				
25				
26	岩手ブロック協議会 組織力強化セミナー	一関市民センター	14:00～16:00	阿部徹、千葉洋平、阿部裕章、清水、千葉晴一
27				
28	二代目時の太鼓 ご用納め式	一ノ関駅 新幹線コンコース	11:00～	畠山武将、千葉洋平、平間、千葉勝徳、村田
29	第12回理事会議	古戦場	9:30～	理事会メンバー
30				
31				

一般社団法人 一関青年会議所

2019 年度組織図



〈事業報告〉

一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会館・委員会名		役職		担当委員長							
事務局・財政局		事務局長		清水 善郎							
例会月	1月	事業名		新年交賀会							
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額					
2019/1/5		ペリーノホテル一関		対内	25 名	対外	122 名	合計	147 名	72,000	円
事業目的				目的の検証結果							
対外： ・理事長所信、活動方針、各委員会の事業計画を、ご来賓、青年会議所OB、各地青年会議所会員に理解していただくことを目的とします。 ・オブザーバーの方に、一関青年会議所のメンバーと運動を知って、理解していただくことを目的とします。 対内： ・理事長の所信、スローガン、各委員会の事業計画を深く理解することにより、新年度からの活動を共に行っていく意識をより強くもっていただくことを目的とします。				【対外】 ・理事長所信、スローガン、各委員会事業計画、メンバーの発表を通じて、来賓やOB、来訪J Cの皆様へ新年度の活動方針と体制を知っていただき、理解していただく場となりました。 ・事業当日の岩手日日紙面に「遂げずばやまじ」の掲載をし、出席者全員に配ることで、一関青年会議所についての理解を深めていただきました。 ・事業翌日の岩手日日、岩手日報の新聞紙面にも取り上げられ、広く一関市民への周知が図られました。 【対内】 ・当日出席したメンバーにアンケートを取り、理事長の所信・スローガンについては100%、各委員会事業計画については91.7%の方が「理解し共有することが出来た」もしくは「だいたい出来た」と回答しており、所信や委員会事業計画に対する理解が深まったと考えられます。							
事業内容											
・新年交賀会を開催し、その中で2019年度の理事長所信、スローガン、組織体系、各委員会事業計画等を来賓やOB先輩、各地青年会議所会員の皆様に向けて発表をしました。その際、ムービーやスライドを効果的に使い、伝え方を工夫しました。 ・メンバーには事業準備を含めて協力して取り組んでいただくことで、理事長所信や他の委員会の事業計画を知っていただき、一関青年会議所全体の活動方針との意識を共有する機会としました。メンバーが一致団結して2019年度のスタートをされるようにしました。 ・対外の方との交流を深め、今後事業を行う際に協力をしていただけるような関係の構築を図りました。											
反省点・次年度引継ぎ事項						委員長所見					
・来賓の方の出欠確認は重要なので、しっかり行う必要があります。返信のハガキが来ていない来賓の方にも電話等で連絡を取り、出欠の確認をした方がいいです。 ・当日の配付資料や席表等は、複数人で入念なチェックを行い、作成する必要があります。 ・理事長にプレジデンシャルリースを付ける際、正しい位置を確認する必要があります。 ・オブザーバーの参加がいませんでした。 ・御挨拶を賜ったご来賓への御礼状発送は事業終了後できるだけ早く行う必要があります。 ・開式前にオープニングムービーを流すことで、効果的に式典の雰囲気を作ることが出来ました						2019年度最初の事業であり、多くのご来賓、OB先輩、各地会員会議所会員の皆様をお招きする事業ということで、事務局・財政局で協力して準備を進めました。 新年交賀会を用意する資料や作業量が多いため、スケジュールを綿密に組み、時間に余裕をもって進めることが重要です。特に外部に出す資料や印刷物に関しては度重なるチェックが必要と実感しました。 事業の準備や当日の運営において、今年度の基本理念「我が気に入らぬことが、我がためになるものなり」の考えのもとにメンバー皆が行動すること、それぞれが成長のきっかけをつかめた新年交賀会になったと考えます。					

事業風景写真



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会費・委員会名		役職		担当委員長						
組織進化推進委員会		委員長		坂下 立志						
例会月	2月	事業名		第3回 青年ビジネス交流会 ～地域団体交流～						
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額				
2019/12/8		ペリーノホテル		対内	32 名	対外	27 名	合計	59 名	0 円
事業目的				目的の検証結果						
【対外】 ・青年会議所運動及び会員に対する興味をもたせることを目的とします。 ・同じ地域に住む同世代の働き手との交流をもつことを目的とします。 ・各々地域団体の活動を知り、興味をもたせることを目的とします。 【対内】 ・同じ地域に住む同世代働き手との交流をします。 ・他の地域団体の活動を知り、今後の事業構築の参考とします。 ・会員拡大に対する意識を深めることを目的とします。 ・会員候補者情報の取得を目的とします。				【対外】 ・当日まで面識がなかった参加者同士が話している状況を多く見かけました。それを裏付けるように、アンケート結果でも参加者全員が5段階評価の上位回答だったことから、目的は達成されました。 ・他の地域団体の活動をプレゼンテーションで知ることにより、興味を持っていただけました。アンケート結果でも参加者全員が5段階評価の上位回答だったことから、目的は達成されました。 ・参加者からの意見や二次会の参加者の数を踏まえても、興味を持っていただけたことがわかりました。また、アンケート結果でも参加者全員が5段階評価の上位回答だったことから、この目的は達成されました。 ・過去の事業で参加しただけなかったオブザーバーに参加いただき、交流することができました。 ・パワーポイントや動画を使用したプレゼンテーションは分かりやすく、参加者に興味を持たせることができました。 【対内】 ・会場で会員が参加者同士を紹介している光景が多く目につきました。アンケート結果では一部出来なかったとの回答もありましたが、多くの方が5段階評価の上位回答であり、会全体で見ればおおむね達成されました。 ・団体毎に様々な方向性の違った活動があり、事業構築に繋がる新たな情報を得ることができました。アンケート結果では多くの方が5段階評価の上位回答であり、会全体で見ればおおむね達成されました。 ・当日になって事前に予定していなかった参加者が増えたことから、会員拡大に積極的な姿勢が伺われました。アンケート結果では一部出来なかったとの回答もありましたが、多くの方が5段階評価の上位回答であり、会全体で見ればおおむね達成されました。入会に積極的な方の名前が会員からも上がってきたことから意識が深まったことが感じられました。 ・過去の事業に参加しなかった方も参加されており、入会候補者情報が増加しました。アンケート結果では一部出来なかったとの回答もありましたが、多くの方が5段階評価の上位回答であり、会全体で見ればおおむね達成されました。 ・会員が積極的に参加者同士の名刺交換の手伝い姿が見受けられました。 ・パワーポイントや動画を使用したプレゼンテーションは分かりやすく、多くの会員に他団体に対する興味を持たせることができました。						
				事業内容						
一関青年会議所は20歳から40歳までの団体であり、40歳を迎えた会員が毎年12月に卒業します。我々現役会員は卒業生への感謝の想いを伝え、卒業生から想いを託される場が必要となります。そのため一関青年会議所では毎年12月に卒業生に敬意と尊敬の意を表し、送り出すための卒業式を開催しております。 ・プログラムや映像で、卒業生のこれまでの経歴や事業をご紹介します。 ・卒業生への送辞や卒業生からの答辞を通じて、これまでの卒業生の活動や想いを聞きます。 ・会員全員での事業への取り組みを通じて、卒業生への今までの感謝の気持ちを表します。 ・会員間の結束を深めるため、多くの会員に役割を分担し事業を行います。										
反省点・次年度引継ぎ事項					委員長所見					
① 各団体の詳細について調査不足であった（商工会議所の下部団体や40歳以下がない等）→候補団体の実態を事前に調査すべきです ② 各団体のプレゼンターとの最終のリハーサル等がなく、氏名の漏れがあった→団体の発表者の氏名を最終段階でも確認すべきです ③ シナリオにフリガナがなかった→司会者の読み間違えを防ぐため、シナリオにはフリガナをふる必要があります ④ 乾杯前から食事とゆうことで参加者が戸惑ってしまい食事が進まなかった→開式前に食事を取る設備では、参加者が気を使ってしまい食事を取らないため、会員が先に着座して料理を食べている、開式後に食事を取る時間を設けるなどの対応が必要です ⑤ 会員の協力を仰ぐため、参加人数や参加団体等の進捗を発信するべきだった→随時SNSで進捗を発信する必要があります ⑥ 途中参加のメンバーは理解が浅くなってしまった→途中参加の方もプレゼン内容の理解ができるように紙ベースでの配布も検討が必要です。 ⑦ メンバーの役割分担や依頼事項が分かり辛いメンバーもいた→電話や直接説明する必要があります ⑧ 各団体へのオフナーが遅くなってしまった→団体が対象の場合は、声掛けの時期をもっと早めると参加者が増えると考えられます。また、団体に対しての声掛けも会員の力を借りて行うべきです ⑨ レイアウト図が分かり辛く、委員会メンバーの説明が必要であった→担当委員会できなくとも設置が可能なら、会場レイアウトの精度をあげることが必要です ⑩ 喫煙ルールを決めていなかったため、非喫煙者の中で不快に感じる方がいた→会場内での参加者の喫煙は控えた方がいい ⑪ 二次会では一部のメンバーが一気飲みを行い場の空気を壊した→一気飲みはしてはいけない旨を再三会員に伝えるべきです ⑫ 二次会で司会者やオブザーバー発表を聞く姿勢が悪かった→二次会についての注意事項等会員間で共有するべきです ⑬ 名刺が切れ、名刺交換ができない参加者がいた→名刺が切れるようなことがないよう事前に参加者に参加人数を案内する配慮が必要です ⑭ 自己紹介で大人数の方が同時に登壇し、壇上での待ち時間が長かった→発表者の人数に合わせて順番に登壇していただくなど配慮が必要です ⑮ 複数枚の会員向け配布物をまとめておかなかったため、受付に手間取った→配布物はすぐ配布できるように準備しておく必要があります ⑯ 参加者の発表の際に選参者の順番を変更するための司会とPC担当の引継ぎがうまく出来なかった→参加者の発表や対外への依頼事項がある場合は、万が一参加者が選参の場合の発表順の変更等の対応も事前に検討しておくとうき余裕を持った運営ができます					昨年、一昨年のビジネス交流会とまた違った形で、多くの参加者のご協力で開催できたことをうれしく思います。地域の活性化に対して前向きな多くの仲間が参加してくれたことにより、多くの方に青年会議所を知っていただく機会となりました。今後の青年会議所活動には会員だけではなく、志を同じくする仲間の存在が不可欠であります。この事業をきっかけに多くの仲間と共に活動できることを期待しております。また、参加者の動員や当日の参加者との関わりなど会員皆様の会員拡大に対して協力する姿勢を感じました。					

事業風景写真



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会議・委員会名		役職		担当委員長							
郷土愛醸成委員会		委員長		千葉 勝徳							
例会月	3月	事業名		『マナーアップ講座～みんなのマナー～』							
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額					
平成31年3月20日		なのはなプラザ3F 一関市民センター 大会議室		対内	24 名	対外	0 名	合計	24 名	¥6,974	円
事業目的				目的の検証結果							
対内： ①ビジネスやプライベートに使える一般常識・礼儀作法を学び、資質向上を目的とします。 ②青年会議所として会員一人ひとりがマナーの大切さを学び、会員全体の常識水準の底上げを目的とします。 ③地域のリーダーとしての自覚、心構えを持ってもらいます。 ④各式典や例会に参加するとき等、会員の常識・作法・意識の統一を目的とします。				事業目的に達した点： ・講師として斎藤賢先輩を選んだことにより、一般的なマナーだけでなく、マナーとは相手があるマナーであり、マナーブックにはない一般常識や礼儀作法だけがマナーではないということを学ぶことができたので、今回の講師選定及び説きは成功であったと考えます。 ・OB先輩の斎藤賢先輩に講師をしていただいたことにより、来年度の青年会議所65周年に向けて会員の意識向上が図られ、一人一人の青年会議所会員としての在り方や資質向上につなげることができました。 ・OB先輩から、ご自身の事業やJC活動での体験に基づいた話をしていただいたことで、会員の皆様が開き入れやすい講座になりました。 事業目的に達しなかった点： ・会員の参加率が少ない状態での例会となったため、一関青年会議所として全体の底上げにはできませんでした。							
事業内容											
【マナーアップ講座】 ・一関青年会議所の会員・仮会員の資質向上に繋がる一般常識・礼儀作法を学び、復習の場とし再認識をしてもらいます。 ・一関青年会議所は一関の期待を背負っている団体であることを自覚し、本事業で知識を積み今後の一関青年会議所の活動、各自の事業、私生活に役立てる講座とします。 ・OB先輩であり、第60代理事長を務めた身近に感じられる株式会社斎藤松林堂代表取締役斎藤賢様から様々な視線からのご意見を交えながらの、資質向上に繋がる講座をしていただくことにより、一般常識・礼儀作法について、一人ひとりが身につけなければならないと自覚を持って行動に移せるようにします。 ・この講演を聞いて一般常識、礼儀作法に関して知識を深めて、今後新入会員や各自会社に持ち帰って教えることのできる講座とします。											
反省点・次年度引継ぎ事項						委員長所見					
①当日参加しているメンバーの確認をしていなかった為、欠席者の確認ができず、例会セレモニーの際に役割分担変更になりスムーズな進行ができませんでした。 →役割分担は事前準備中にしっかり行うことは大切ですが、欠席者、遅参者がでた場合の役割分担まで決めておき、当日にも参加者、遅参者の再確認し柔軟に対応できるようにする必要があります。 ②対談であることを事前に理事長と打ち合わせが明確にできていなかった為、スムーズな進行ができませんでした。 →事前に講師、理事長と対談内容の綿密な打ち合わせが必要です。 ③当日に流れからのスケジュール変更をおこなってしまいました。 →講師と事前に講座全体のスケジュールの綿密な打ち合わせが必要です。 ④講師との打合せをおこなっていたが、スケジュールどおりの進行ができませんでした。 →講師と事前に講座全体のスケジュールの綿密な打ち合わせが必要です。 ⑤講師との打ち合わせが不十分だったため、審議を頂いた内容と全く違う講義になってしまいました。 →講師との講座内容の綿密な打ち合わせし、当日講座内容の変更がならないようにする必要があります。また、方が一講師不在の場合、委員会では対応ができるよう、講座内容を事前に委員会内で把握する必要があります。						一般常識でのマナー講座とは違い、実践から学びえた経験を元にした講座を開催する事ができ、相手を感じ、相手の行動から感じ取ることの必要性を知り、相手の気分を害さないために、自分が何をすべきか、どのように行動することが大切なのかを知ることができました。 おもてなしという言葉に対して、相手を思いやり、何を必要としているのかを自分で感じ取り、率先して相手のために行動することにより相手を感じ得るものです。今回のマナーアップ講座でも同じことだと感じました。 相手のために、自分ができることを率先して動く事がマナーであると感じました。 青年会議所、サービス業の経営の経験積んでおり、身近の先輩から言葉なので、会員の皆様も聞き入れやすかった点 の机上で学ぶ常識、マナーアンケートにも記載がありました。が、講師選定は間違いありませんでした。卒業してからも我々現役のために、このような熱い講座を開催していただいた先輩がいて、学びを得ることのできる青年会議所に参加することができ嬉しく思います。					



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会議・委員会名		役職		担当委員長							
地域活性化委員会		委員長		阿部 賢太郎							
例会月	4月	事業名		第3回JCカップU-11少年少女サッカーいちのせきフェスティバル							
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額					
2019/4/6 2019/4/7		一関サッカー・ラグビー場		対内	31名	対外	146名	合計	177名	231,796	円
事業目的				目的の検証結果							
【対外】 参加者 ・試合を通して、地域間交流や友情を育みます。 ・「グッドルーザーの精神」や「リスペクトの精神」を広めることを目的とします。 オブザーバー ・一関青年会議所が多様な活動の一環として青少年育成事業を行っていることを知っていただきます。 【対内】 ・青少年育成の理念として「グッドルーザーの精神」や「リスペクトの精神」を学ぶことを目的とします。 ・多くの市民が関わるサッカー大会の運営を通じ、健全な青少年育成の手法や現状を学ぶことを目的とします。				【対外】「グッドルーザーの精神」や「リスペクトの精神」を広めることを目的とします。 子ども向けアンケート「グッドルーザーの精神やリスペクトの精神をもってプレーできたか」に対する回答は「できた」36%「少しできた」51%「できなかった」32%となり、達成できたと考えられます。 「できなかった」選択理由の大半は「交流する場面がなかった」でした。各チーム指導者により試合以外で他チームとの交流に時間を作ることにに対して差が出ており、試合以外の時間で交流を育む場をより多く設定することが必要でした。 引率者アンケートにおいても「グッドルーザー、リスペクトの精神を子どもたちに育むことが達成できたと思いますか？」に対する回答は「思う8名 思わない1名 どちらでもない1名」となっている上、「思わない」を選択した方もその理由を「低学年の子が多く、これから学ばせていきたい」としていることから達成できたと考えられます。							
事業内容											
今後の地域社会を担う子どもたちに勝ち負けに関わらず相手を称えられる前向きな心を持つてもらうことが地域の活性化に必要であり、2017年より開催しているJCカップU-11少年少女サッカーいちのせきフェスティバルを継続して開催します。 JCカップの大会理念である「グッドルーザーの精神」や「リスペクトの精神」を広めるため、開会式の趣旨説明にて、この大会を通じて子どもたちにそれぞれの精神を学んでほしいことを強く伝えます。この大会では県大会出場チームやMVPを選出するだけでなく、グッドルーザー賞（チーム部門、個人部門）を選出することを伝え、「相手を思いやる大きな心と強い精神力」「サッカーに関わる全ての方たちへ尊敬の念」を意識してプレーしてもらいます。また、会場の一角にパソコン・モニターを設置し、公益社団法人日本青年会議所制作のグッドルーザーの精神を伝える動画及び一般社団法人名義制作のJCカップにおけるサッカークリニックの動画を放映します。											
反省点・次年度引継ぎ事項				委員長所見							
①大会理念は日本青年会議所により定められている部分はありますが、一関大会は対外対象者に何を伝えるためにに行かなくてはならないか検討し、メンバーに共有することがメンバーを巻き込むために必要でした。 ②大会理念について、開会式の時点で選手が知っているか筆手を求めたことによりスタート時点で認知度がほとんどなかったことを知り事業目的の達成の検証時に参考にすることが出来ました。 ③②のとおり、第3回大会ながら、過去の大会に参加した児童が多く参加していることが見込まれる中でも大会の理念が定着しておらず、継続して理念を定着させる工夫が必要です。 ④子ども用アンケートに将来の夢を聞く設問を記載しましたが、今後の青少年向け事業性に役立つ可能性があるのて性別記載欄など集計や分析しやすい内容を盛り込むべきです。 ⑤第2回大会までの日程選択の経緯を考慮した上でサッカー協会4種事務局と大会日程を相談して決定しましたが、実施すると入学と被る問題が発生しました。また、小学生年代は各種サッカー大会の頻度が多いことに留意してください。				大会を通じてJCカップの掲げる「グッドルーザーの精神」や「リスペクトの精神」の素晴らしいことを再認識し、これを子ども達に身につけてもらうことは将来の地域の担い手を育成する上でとても意義のあることだと確信しました。アンケートや閉会式の様子からも子ども達にはよく理解してくれてと考えております。 しかしながら、大会形式となる真剣勝負の場で子ども達に理念を伝えることや朝一で定着させることは難しいと感じました。事業を計画する当初から目的よりも大会という手法が先行させてしまった面は否めず、サッカー大会の運営は参加者数の多さや試合時間、ルールなど制約が大きく、より子どもたちに理念を伝える時間や場面を設けるために他の手法はなかったのかと悔いが残りました。同じ対象に理念を伝えるのであれば、真剣勝負の大会よりもサッカークリニック等、メンバーがより子ども達とコミュニケーションを取りやすいプログラムのの方が適していたのではないかと自分の進め方を反省しております。自由な発想で子どもたちに「グッドルーザーの精神」「リスペクトの精神」を伝える手法を考えることが出来たのかもしれない。 改めて、青少年育成事業においては「伝えたいこと」に対して「どのような伝え方が手法として効果的か」を検討した上で、実現する手法を決めなければいけないことを強く学ばせていただきました。							



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会期・委員会名		役職		担当委員長						
啓発促進委員会		委員長		阿部裕章						
例会月	5月	事業名		プロジェクトアドベンチャー ～アクティブチームビルディング～						
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額				
2019/5/26		山目市民センター体育館、和室		対内	24 名	対外	2 名	合計	26 名	57,474 円
事業目的				目的の検証結果						
対内： ・会員同士の相互理解と結束や親睦を深めることを目的とします。 ・青年会議所活動、運動への組織力を高めることを目的とします。 ・会員同士のコミュニケーションを深め活動、運動へ参加する意識の向上を目的とします。 対外： ・青年会議所会員について知ってもらうことを目的とします。 ・会員と交流を持ってもらうことで会員拡大につなげることを目的とします。 ・組織におけるコミュニケーションの取り方について学んでもらうことを目的とします。				【対内】 ・本事業において、コミュニケーションについて学び、アクティビティの中で実践できたことが参加会員同士の相互理解、親睦、結束組織力の向上という回答につながりました。 ・座学と体験、また講師の講話から参加者の興味を強く引き付け、プログラムにのめり込むことで印象の強い学びにつながりました。 ・手法、講師の選定は本事業において非常に有用であったと考えられます。 【対外】 ・本事業において一関青年会議所会員と一緒にプログラムに取り組み深い交流が持てました。 ・課題達成に向けた行動により、人に興味を持ちその集団への興味、関心に繋がりました。 ・集団でのプログラムを通じ、組織でのコミュニケーションへの気づきを得ていただくことができました。						
事業内容										
昨年一関青年会議所の会員は34%拡大しました。入会年度の浅い会員が増えたことは、一関青年会議所の会員同士の相互理解の不足は、新しい環境で相互に発信、受信のコミュニケーションが浅くなるといった不安材料となります。そしてそれは会員が定着せず組織力が低下することにつながると考えられます。特に、一般社会においても人間関係をきつかけに組織から離れる傾向があります。 今後青年会議所会員としてより良い活動、運動につなげるためには、会員同士の相互理解を深め、組織力を強化しよい人間関係を築くことが求められます。 チームビルディングのプログラムとして、キャンプ場や学校教育、病院、更生施設などの他、企業研修やスポーツチームなどで広く活用されているプロジェクトアドベンチャー（以下PA）を行います。遊びや身体を仲間に委ねなければ達成できないグループでの課題解決、身体の安全を仲間に行われる高所でのチャレンジなどが主なもの。与えられる課題の解決を目指す過程で、お互いを最大限に尊重し自分と相手の心身の安全を守るという約束に基づき、皆が納得した状態での合意形成を図ろうとすることでコミュニケーションを取り、相互理解を深めます。また行われた合意形成から共に課題を解決する意識とその達成感を共有し結束や親睦につながります。結束や親睦が深まることで、会員同士の気持ちの上での距離を縮め、声かけなどのコンタクトの取りやすさ、参加への動機づけにつながります。 入会候補者には、プログラムを進める中で会員とともに課題解決を目指す中で会員について知り、人間関係を深めることで入会へつなげます。										
反省点・次年度引継ぎ事項				委員長所見						
年度を跨いでの協議、審議について、スケジュールの確認は学校行事が公表される新年度になってから確定させる方が後から変更せずに済みます。本年度はメンバーの中に父兄がおりましたが新年度が始まるまでスケジュールはわかりませんでした。募集締め切り日以降のキャンセルについての連絡方法の明記と連絡ツールの細かな確認の不足や事業における注意事項について細かな確認、周知が不足していました。プログラムの時間確認は休憩時にも講師と落ち着いて行い、予定通り進行することが必要でした。講師が用意する予定となった資料について、講師が忘れる可能性があり、委員会ですし出で確認の上準備があればよかったです。プログラムについて講師の資料だけでなく、受講者としてのまとめの資料があると事業後の振り返りや不参加者への共有に使うことができました。				入会年数2年以下の会員には10名ご参加いただき、結束や親睦、組織力の向上についてアンケートより達成された事業となりました。既存の会員にも新たな学びや気づきを提供する場となりましたし、参加されなかった方に対しても事業内容について共有を図ることで組織力強化につながる例会にすることができました。						



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会期・委員会名		役職		担当委員長							
未来創造委員会		委員長		加藤圭一郎							
例会月	6月	事業名		考えよう未来の日本～自衛隊編～							
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額					
2019/6/26		なのはなプラザ3F 一関市民センター 大会議室		対内	19 名	対外	1 名	合計	20 名	3,220 円	
事業目的				目的の検証結果							
【対内】 ・憲法9条の根底にある自衛隊の存在意義と活動内容を知ることが目的とします。				【対内】 ・アンケート結果より、事前に講話内容を知っている会員が少なかったが、講師の講話により、自衛隊への関心や活動内容を知ってもらえた。 ・アンケート結果より、様々な場所で活躍されていて、日本にかかせない組織だと思った。災害派遣や他国からの侵略の備えとして、必要不可欠な存在であることが出来ました。など、自衛隊を知る事が出来たとの回答が多かったことから、達成できた。							
事業内容											
施行から70年が経つ日本国憲法のもとにある現代社会では、現実と憲法との乖離が如実に表れているという意見も出ており、憲法に対する意識は高まりつつあります。また、日本青年会議所としても憲法9条に対し、多くの勉強会や講習会を開催しておりますが、我々の憲法9条の根底である自衛隊の活動や存在意義についての知識が不足しているのが現状です。憲法9条の護憲や改憲を考えるには根底にある自衛隊への知識を学ぶ場が必要です。 現役自衛隊員の講話を聴くことにより、自衛隊の存在意義や役割を理解していただきます。同時に活動内容についても講義をしていただき、東日本大震災や各地の災害での復興活動についても講和いただきます。また、今後改憲に対する国民投票が起こった際にしっかりと意思を持ち投票できるよう、知識を深めていただきます。											
反省点・次年度引継ぎ事項						委員長所見					
・セレモニーの時間配分を専務や事務局と相談し、タイムスケジュールを事前に作成するべきです。 委員会内でリハーサルを行い漏れがないか、時間配分は万全かの確認を何度か通しのリハーサルをしておくべきです。 ・事前に質問をするメンバーを指名しておくようにした方がよいです。また一人ではなく何名か委員会内で決めておき、事前に依頼するようにするべきです。そのような形式をとる事により、各自参加者が講話内容への関心、興味が高まり真剣に講義を聞く姿勢へ繋げる事が期待できます。また、会員が興味をもってくれる内容の場合、講話終了後、フランクに質問ができるような時間を長めにとっていただく方がよいです。 ・会員の当日の飛び入り参加を考え、5部～10部多めに準備してもらうべきです。また、それでもなお不足した際、メンバーと共有し使用してもらえるようにメンバーに周知しておくべきです。 ・委員会が声かけを徹底し、各委員長にも協力をお願いする。また、参加者募集の段階で遅参退出の欄を設けるべきです。メンバーに時間に間に合うよう周知を促すべきです。また講師の方にもその旨を伝えておくべきです。						日本青年会議所で行われている、憲法の改正議論の中心にある自衛隊の存続意義や活動内容を知ることができたと感じました。この事業が、憲法第9条における自衛隊についての自己意識の確立のきっかけになる事を期待しております。また、自衛隊への関心・興味をもってもらえた事でメイン事業の10月例会へ繋がる事業となりました。					



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会館・委員会名		役職		担当委員長	
地域活性化委員会		委員長		阿部 賢太郎	
例会月	7月	事業名		地域の魅力を伝えよう！インバウンド観光案内体験！	
開催日時	開催場所	参加人数		決算金額	
2019/9/1	一関市内 平泉町内	対内	24 名 対外	22 名 合計	46 名 94,133 円
事業目的		目的の検証結果			
【共通】 ①地域活性化においてインバウンド観光の振興が有効であることを再確認していただきます ②インバウンド拡大のために地域の魅力について理解を深めていただきます ③外国人へ地域の魅力を伝える際には現時点での語学力に関わらず、積極的に伝える姿勢が大切であることを学んでいただきます ④他の参加者や外国人参加者と共に地域活性化や観光振興について現在の課題や改善策を見つけていただきます 【対外】 ①一関青年会議所が地域活性化のための活動を行っていることを知っていただく機会とします		【共通】 ・アンケートにより①②③について、認識を深めていただけたことがわかりました。 ・「外国入観光客受け入れのために私たちがすべきこと」として行動指針「①積極的に交流する姿勢を！」「外国の方から見た表、積極的な環境整備をしよう！」「地域の歴史・文化をよく知ろう！」を当青年会議所を含む参加者全員で発信していこうと意見をまとめました。 【対外】 ・アンケート「一関青年会議所の活動が地域活性化のために役立っていると感じましたか？」への回答「感じた」9名「多少感じた」1名「無回答」2名、「感じた」「多少感じた」合計12名中10名（83%）より達成したと考えられます。 「自発的な行動や問題解決を促す活動になっていると思うから」「町のことを深く考える」「努力を感じました」より、我々の活動、運動を理解していただけたものと思います。			
事業内容					
一関市により策定された『一関市観光振興計画』を踏まえ、観光業を「多くの産業に波及効果を及ぼす裾野の広い産業」「地域経済の活性化による雇用創出につながるもの」と捉え、地域活性化の起爆剤と期待されるインバウンド振興への取り組みとして外国人観光客への観光案内を模擬体験を行います。 インバウンド拡大のためには行政や観光業関係者だけでなく市民が果たすべき役割が存在することへ認識を深めるため、インバウンド拡大が地域活性化に有効であることをクイズ形式で学びます。インバウンド振興の有効性を学んだ後、実際に7～9人の班で外国人観光客へ案内を体験することで、語学力や地域資源に関する知識などインバウンド受け入れのために必要なことが何かを体感していただきます。その後、各参加者がインバウンド受け入れのために必要と感じたことを各班の中で意見交換してまとめ、参加者全体の前で発表していただき、受け入れのために今後市民として取り組むべき課題を共有します。 事業のまとめとして、「外国人観光客受け入れのため私たちがすべきこと」について3つの行動指針にまとめ、当青年会議所のHPやSNSを通じて発信することにより、市民における受け入れ意識の向上や醸成が期待されます。					
反省点・次年度引継ぎ事項			委員長所見		
①今回の事業では青年会議所入会世代を優先的に募集する意図から、新聞やラジオなどメディアを活用した告知や各学校へのチラシ配布依頼を行いました。募集告知は参加募集のためだけでなく、事業の目的や狙いを多くの方に知っていただく効果もあるため実施した方が、より事業の効果が広がります。 ②メディアに取り上げていただくことは一関青年会議所活動の宣伝の他、事業目的を社会へ伝え、波及させる効果があるため積極的に行うべきです。 ③プレスリリース書面をファックスするだけでは各社には取付いていただけなかったため、電話や訪問での依頼や趣旨説明が必要でした。 ④大人数での移動に対応するため事業統括の下にグループ統括を設けましたが、統括するグループの運営を主体的に行うためには権限と責任を明確にする必要がありました。 ⑤A.L.T.の中にも日本語が流暢ではない方がいたため、事前に日本語会話能力について把握する必要がありました。 ⑥「まとめ」の意見発表で外国人参加者からも多くの意見が出ましたが、外国人参加者が英語で説明している際に日本人参加者が理解出来ていなかったため、日本語訳しながら話すように説明すべきでした。			今回の事業を通じて、地域活性化への効果が高いインバウンド観光客の受け入れに対して、行政は充実させる取り組みをしているもの民間までにはその重要性が浸透しておらず意識の向上が必要であることを再認識しました。 民間への浸透にはインバウンドの効果を知っていただくことが重要と考えておりましたが、それ以上に重要なことは実際に交流して心理的な障壁を取り払うことで、受け入れの第一歩となることを学びました。参加者から「交流を通じて積極的に交流したい意欲が現れ、地元のことを伝えるために地域の魅力や英語を学びたくなった」と意見をいただき、交流を楽しむ機会を作ることがインバウンド受け入れの意識を高めるために必要と感じました。また、参加いただいた外国人の方から「積極的に地域のために働きかけたいと思っていたが機会がなかった。このような機会に協力できて嬉しい」と言っていたことが想定外の成果でした。 今回の事業を行うことによって、インバウンド拡大が地域活性化にとって重要であることを参加者に意識していただき、今後の地域活性化につながる効果があったと考えます。		



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会館・委員会名		役職		担当委員長							
郷土愛醸成委員会		委員長		千葉 勝徳							
例会月	8月	事業名		二代目時の太鼓大巡行							
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額					
平成31年8月3日		一関市内（中里市民センター→中央町→地主町→大町→ノ関駅前→なのはなプラザ横）		対内	28 名	対外	151 名	合計	179 名	843,278	円
事業目的					目的の検証結果						
対内： ・一関の夏まつりに賑わいを創出し盛り上げることを目的とします。 ・一関の歴史のある時の太鼓大巡行に多くの会員の参加を促し、協力し合い会員一丸となって、巡行をやり遂げることで、郷土愛の醸成と巡行の成功に繋がります。 対外： ・地元の祭りに参加する楽しさとともに、達成感を得てもらいます。 ・地域文化に触れることにより、二代目時の太鼓のことを多くの市民に伝える機会とします。 ・郷土愛を醸成し地域文化の担い手を増やすよう促します。					【対外】 ①皆で同じ目的を持ち最終地点まで巡行を終えた達成感を感じることができたという回答が100%でした。結果、地元の祭りに参加する楽しさとともに、達成感を得てもらうことができました。 ②引き手、高校生共々、巡行に参加することで時の太鼓に興味をもったという回答が92%でした。結果、二代目時の太鼓のことを多くの市民に伝える機会を提供できました。 【対内】 会員アンケートの結果、100%が巡行を終えた達成感を感じることができたという回答があり、達成感を感じることができなかったという回答が0%でした。結果、参加した会員が賑わいを創出し一関夏まつりを盛り上げることができました。						
事業内容											
・賑わいを創出するためには、巡行に多くの人を巻き込む必要があります。 ・多くの人を巻き込むために、巡行の安全性を上げる必要があります。 ・巡行の安全性を上げるために、多くのボランティアスタッフが必要となります。 ・ボランティアスタッフを高校生に依頼することで、今まであまり参加してなかった年代を受け入れることができます。 ・安全性を上げることに、引手を多く受け入れることができます。 ・高校生を巡行に参加させることにより、地域文化継承の担い手を増やせるよう促します。 ・多くの人数で巡行することにより、一関の夏まつりに賑わいを創出し盛り上げるようにします。 ・ボランティアスタッフは、一関修紅高等学校と一関学院高等学校に依頼をして生徒を集めていただきます。											
反省点・次年度引継ぎ事項						委員長所見					
会員の参加人数が少ないため、役割分担に余裕がありませんでした。 →会員全員で協力し合い、巡行をやり遂げることで、夏まつりに賑わいを創出するため、多くの参加を促す必要があります。また、日程はすでに決まっている事業です。次年度体制になり次第、会員に周知し全員参加できるよう日程の審議を通す必要があります。会員に案内を出す際、各委員長に参加導引を依頼し、出欠確認時に再度会員に個別で参加を促す必要があります。 8月の炎天下の巡行とういことから、引手の保護者様から時間、距離が長いと意見がありました。 →今年は猛暑が予測されていたので、出発式と大町の巡行に参加していただきたいとお願いしました。来年も引手を園児で募集するのであれば検討する必要があります。参加者の中に小学生のリピーターも参加していますので、小学生にも引手の募集をかけるのか、引手の募集を小学生に引き上げるのかを検討する必要があります。						本年、いちのせき夏祭りに賑わいの創出、地域文化を伝えることを目的とし、また委員会スローガンとして「和」を掲げて事業を進めてまいりました。 二代目時の太鼓大巡行へ参加し、見聞きすることにより、地域文化を伝えることはできました。昨年度同様、高校生ボランティアを募集し賑わいの創出図りましたが、昨年度実績までとどきませんでした。しかし、今年度はボランティア用半纏を製作することにより、参加者と会員に一体感がもてた事業にすることができたと思います。 一関市へ更なる賑わい、郷土愛を醸成していくため、時の太鼓の歴史、青年会議所が行ってきた歴史双方を、次の世代へと繋いでいく必要があると思います。					



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会誌・委員会名			役職			担当委員長				
啓発促進委員会			委員長			阿部裕章				
例会月		9月	事業名		講演会「気づき変える行動と未来」					
開催日時		開催場所		参加人数			決算金額			
2019/10/17		ベリーノホテル一関		対内	22名	対外	239名	合計	261名	534,112円
事業目的				目的の検証結果						
対外： ・多くの可能性を持つ高校生が、自身の成長に向けて主体的に目的や目標を設定し、行動する意識を持ってもらうことを目的とします。 ・他者の例を自分に置き換えて考え、自分の現状と改めて向き合ってもらうことを目的とします。 ・入会候補者に対して本事業を見てもらい、会員拡大につなげます。 対内： ・企業のリーダーとして、自身が気づきを得て一歩踏み出す意識を持つことを目的とします。				【対外】 ・目的、目標の設定は、成果を得るために必要との認識の回答が多く見られ、それは進路や普段の生活や、部活動等幅広いものでした。分野を問わず目的、目標の設定、行動の必要性が伝わりその意識を持ってもらえました。 ・進路に関する回答が見られ、同年代の選手の取り組みや講師のキャリアと自分自身を照らし合わせながら自分自身と向き合ってもらうことができました。 ・目的、目標の設定だけでなく、その後の行動という点へのつながりがあり強く見られず、より具体的な行動につなげられる講演会にできるとよかったのではないかと考えられます。 【対内】 ・自分自身の仕事や、青年会議所活動、子供の教育と幅広く照らし合わせて講演を聞いてもらうことができました。						
事業内容										
昨年一関青年会議所が実施した高校生の就職に関するアンケートでは、過半数を超える学生が進学を考えており、更に進学希望者の半数が具体的な目的や目標をもっていないことがわかりました。また、市内の高校教諭数名からは学生に自発性や野心が見られないという意見もありました。目的、目標に向けた自己成長や専門分野の学びのための進学にもかかわらず、その意味に気が付かなければ自発性も持てず、成長の機会を逃しかねません。多くの可能性を持つ高校生の今後の自己成長には、自分なりの目的、目標を持つことや、その達成に向けた行動を実行するための気づきにつなげる事業として講演会を開催しました。 卓球男子ナショナルチーム ストレngth&コンディショニングコーチ 田中礼人氏を講師に迎え、一関の高校生に向けて、日本代表選手が現状からの成長に向けた気づきや学び、目標設定と主体的に行動する過程、そしてその成果の実例をお話いただきます。また、ご自身のキャリア形成についての過程について進路に関わり具体的な例をお話いただきました。										
反省点・次年度引継ぎ事項				委員長所見						
市内の高校に対して授業の一環としての参加を呼び掛けた事業でしたが、参加が見込める日程の聞き取り段階で、日時を含めた内容をもって検討という高校が見られ、動員の確保に苦慮することとなりました。旧一関市以外の高校では日程とは別に、予算が前年12月頃に決まるため検討するにはそれまでに案内をする必要があります。また、本年は祝日が多くなったことから授業時間確保に苦慮する高校も多く、結果として事業規模を縮小しての開催となりました。事業計画や聞き取り、案内などの準備が前年度からより具体的にすることが必要でした。 対外事業ということで、対外対象者に向けた主催者の意図を伝えることは先生方を通して行うことができましたが、対内に向けて伝えることが不十分でした。対外事業でありながらも、対内の目的周知も十分にすることが必要でした。				学校教育にも関わるスポーツで、実績を踏まえて題材とすることで高校生、教員の興味関心を誘うという点において、先生方からも、高校生が予想以上によく聞いていたとお声をいただき、また講演中の様子からもそれが見られました。アンケート内では講師の講演方法についての回答が多く見られました。「わかりやすかった」といった肯定的なものではありましたが、本来の目的としてこの回答が多かったことは、趣旨の周知が行き届かなかったと考えられます。「メタ認知」という能力があり、現在の学校教育の場においてもそのための指導が行われています。アンケートにおいて意見のばらつきがみられたのは、その能力を求め割合が高い講演となったと考えられます。大衆的にももう少しわかりやすい題材を取り入れることでより多くの気づきや学びにつなげられたものと考えられます。						



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会誌・委員会名			役職			担当委員長			
未来創造委員会			委員長			加藤 圭一郎			
例会月	10月	事業名		見たい！行きたい！！自衛たい！！！！					
開催日時		開催場所		参加人数			決算金額		
2019/11/9 2019/11/10		陸上自衛隊岩手駐屯地		対内	17名	対外	35名	合計 52名	316,211円
事業目的				目的の検証結果					
対外： ・他者への思いやりの心、自制心や規範意識人間関係を形成する力の向上を目指します ・規律、ルールを守ることの大切さを知り、健全な青少年に成長してもらいます ・自衛隊の活動内容を知り、災害時や有事の際だけではなく身近な存在だと知ってもらいます 対内： ・他者への思いやりの心、自制心や規範意識人間関係を形成する力の向上を目指します ・規律、ルールを守ることの大切さを知り、健全な青少年の育成について学ぶと共に、自身も成長する機会とします ・自衛隊の活動内容を知り災害時や有事の際だけでなく身近な存在だと知ってもらいます				【対外】 ・多感な時期の、中学生を連れて行く事業でしたが、各班や学年を超えて一緒に活動していたため、人間関係の向上に繋がったと考えられます。 ・参加者には2日間に渡り全く知らない人と接し、宿泊という体験を通じ、同じ行動、決められた規則や時間を共に経験することにより規律、ルールを守ることの大切さを知っていただく事ができました。また個人で行動をする事業ではなかった為、他者への思いやりの心を育み、規則に従うことで自制心や規範意識、人間関係の形成力の向上が得られました。 ・また自衛隊の駐屯地で、現役の自衛隊職員に身近で指導いただき、活動内容を学ぶことにより、災害時や有事の際だけではなく身近な存在だと知ってもらうことができました。 【対内】 ・規律、ルールを守ることの大切さを知り、健全な青少年の育成について学んでいただきました。また、自衛隊の活動内容を知り、災害時や有事の際だけでなく身近な存在だと知っていただきました。					
事業内容									
一現在の日本の若者・子供たちは、SNSの普及などにより、責任をもって発言することを軽視している傾向にあり、他者への思いやりや、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下などの傾向が指摘されています。また、社会人であっても、時間やルールを守らないなど、規律の乱れがある為、社会人になる前に規律正しい行動の経験をすることは、青少年の健全育成に必要です。また、青年会議所では憲法9条の改正議論を行っており、個人が自衛隊の是非について知識を深める場が必要です。 面識のない生徒同士各班に分かれ、同じ体験をすることにより自然とコミュニケーションがとれ、仲間との信頼関係が生まれることで、地域を超えた絆を育みます。 自衛隊隊員による指導の下、訓練の一端を体験することで規律や規範を学ぶ事により、生活能力の向上が見込まれ、健全な青少年の育成につながります。また、学校の職業体験ではあまり経験できない自衛隊という職業を知ってもらう事により、生徒の視野を広げるきっかけとなります。									
反省点・次年度引継ぎ事項				委員長所見					
・事前に現地調査や確認を行った部分は、実行時も問題がなく安心して進行ができます。 ・宿泊場所の確認等については、事前に一度宿泊をしてお風呂の大きさや、食事方式についても、委員会内で十分に想定を深めて設定した方が良いです。 ・保護者との連絡手段として、メールアドレスを聞くのは効果的である。保護者へのリアルタイムの配信を予定していたが、委員会がタイムスケジュールや次の行動の確認などで対応できなかった為委員会以外で担当者を決めて行うという事です。 ・体調不良の子どもの居る場合の対応は、場所や状態によって変わるので、事前に同行頂く看護師と打合せをするを良い。また、付近の病院なども調べておくべきです。 ・メンバー個々の役割分担について、タイムスケジュールと関連した中で動きが分かるように資料を作成すると、役割が明確になり、責任をもって担当して貰えますので、作成したほうが事業を進めやすいです。 ・アイスブレイクを行わなくても中学生同士は交流がとれますが、行うことにより交流が促進されるので必須ではありませんが検討してください。 ・事業開催日時について、中学生になると新人戦や大会が入ってくるため、各学校へ聞き取りを行い、検討が必要です。				自衛隊内で隊員の講話を聴いたり、時間を区切って活動したことにより、時間の大切さを改めて感じてもらえた事業となったと思います。また、自衛隊の皆様への対応や教え方、たずさわり方など学ぶことが出来、自衛隊を身近に感じられた事業となったこと、中学生という多感な時期に規律・ルールを学べた事は、後の社会生活にも反映されるものと考えます。					



会館・委員会名		役職		担当委員長				
次年度理事長予定者・専務理事予定者		理事長予定者		平間 正宏				
例会月	11月	事業名		11月例会次年度アワー『一関青年会議所の組織強化 ～持続可能な活動のために～』				
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額		
2019/11/30		一関商工会館 3F大会議室		対内	15 名	対外	6 名 合計 21 名	18,000 円
事業目的				目的の検証結果				
対外： 2020年度岩手ブロック協議会役員 ・今後の岩手ブロック協議会のLOM支援委員会、JC運動発信委員会の今後の支援の一助として活用してもらうことを目的とする。 ・今後の岩手ブロック協議会LOM支援委員会、JC運動発信委員会との連携強化を目的とします。 対内： ・日本の青年会議所の一員としてSDGsについての知識を身に付ける ・一関青年会議所の組織力を強化するための会員拡大意識を向上させる				【対外】 ⇒参加されたブロック役員より、今後の岩手ブロック協議会のLOM支援委員会としての会員拡大やSDGsの支援事業の構築に参考となる事業でしたというお話をいただきましたので、目的が達成されたことが確認できました。 ⇒例会冒頭で本日のオブザーバーの紹介の際に、LOM支援委員会の活動内容や今回のオブザーブ目的を紹介したことで、今後のブロックとの連携の一助となり、連携強化に繋がったと思います。 【対内】 ⇒アンケート結果よりSDGsを知っているが、内容まで知らないメンバーも多く、この例会を機にSDGsを取り組む重要性を知ることができたと思われます。また、現在の会社や自分の仕事にSDGsを取り入れたいというメンバーが多かったため、例会にてSDGsについての基礎部分や重要性を認識していただくことができました。また、メンバーの公演中の聞く姿勢やメモを取る姿勢からもSDGsの知識を習得するための行動が見られたため、目的が達成したものと認識いたしました。 しかしながら、参加者が少ないことで一番今後活動する際に必要と思われる若手メンバーにSDGsを知る機会の創出ができなかったため、映像等での配信いたします。				
事業内容								
日本青年会議所2019年度会頭鎌田長明君は、日本の青年会議所はSDGsを日本一推進するという方針を掲げております。各種大会等ではSDGsについての学ぶ機会が多いが、それに参加できていない大半の一関青年会議所メンバーは、現状でSDGsについて学ぶ機会がありません。SDGsを推進している日本の青年会議所の一員として学び、共に推進していかなければなりません。2019年度に日本青年会議所のSDGsアンバサダーに認定された藤田甲之助君を講師に迎え、SDGsについての知識を深め、青年会議所だけではなく個人の仕事にも生かせることができることを学ぶ機会とします。また、藤田甲之介君は2019年度花巻青年会議所の会員拡大副理事長として、東北青年フォーラムにおいて、会員拡大褒賞として東北地区内で拡大率1位を獲得いたしました。率先して会員拡大に取り組むと共に、LOM組織として会員拡大に取り組む意識改革にも成功しております。その会員拡大に対する取り組みとLOMの雰囲気作りを学ぶことで、一関青年会議所メンバーも拡大について他人事と捉えず自分事と捉え、重要性を認識しLOMメンバーが丸となり会員拡大に取り組める意識変革を行います。								
反省点・次年度引継ぎ事項				委員長所見				
【運営面】 ①団会の重要性をどのようにメンバーに周知するのかしっかりと動員計画にそった動員を図ることが望ましいです。また、各委員会へ参加して、動員をお願いに行くことも必要です。その際にどのように伝え、どのように委員会へ情報を下ろしてもらい、何日までという期限等をしっかりと伝えることが必要です。 ②図内文のみではなく、例会開催日までのメンバーへの周知やPRを行い動員を図ることが必要です。講師例会については、特に参加者が少ないと講師に失礼にあたってしまう事や本気で取り組む姿勢があるのか、LOMという目で見られてしまうので特に力を入れることが必要です。 ③講師例会の際は、打ち合わせを綿密に行い、資料や例会の進め方、例会のシミュレーションを綿密に行う必要があります。 ④団会に拡大のシミュレーションを取り入れさせていただきましたが、実際の拡大をしている際の話し方や、切り口など講義だけではわかりにくい部分まで知ることができました。各自拡大活動の際のイメージを持つことができたと思われます。講義での話だけではなく、実際に行ってみることでどのように話せばいいのか、こんな時はどうすればいいのかなどのイメージを持つことができたため、シミュレーションは効果的だと感じました。 ⑤図スケジュールを記載しておりますが、スケジュールの通り動員の手法がとれておりませんでした。スケジュール管理をしっかりとし、早めに人数を確定できるように次年度アワーの内容等のスケジュールを行う必要があります。 【予算面】 ①開催日の選定によっては、各種イベントシーズンとなる場合が多いため、例会会場や懇親会会場の仮予約等は早急にする必要があります。 【その他】 ①既年度アワーにて近年、本年度の事業報告を行っていましたが、本年度は講師をお招きしての例会のため、事業報告や次年度理事長の所信発表などを行いませんでした。本年度の事業紹介は総合資料等でしか行うことがないため、次年度アワーの例会を使用して今年度の開催事業紹介をすることもできますので、次年度アワーを開催する際には、対象者や目的に沿った例会内容を検討してください。				次年度アワーということで、来年度に向けた取り組みができる例会でした。来年度の課題である、SDGsや会員拡大についての会員意識の向上と組織強化のための例会を開催させていただきました。参加者には、SDGsや会員拡大について学びの多い1日だったと感じております。講師におかれましても、実際に今年度拡大を推進した方であり、花巻青年会議所が拡大に丸となり取り組む意識醸成にも携わった方々を講師に迎えさせていただきました。公務や土曜日開催での例会となり、参加人数が少なく、会員全員に伝えることができなかったのですが、会員全員で意識を共有したく、例会時の動画を配信し意識の醸成に繋げて参りたいと思います。また、会員拡大については、意識を持ち続けられるよう今後は、組織強化委員会と連携し、組織改革と会員拡大に努めて参ります。 来年度掲げる拡大目標を超えることができる様、会員と連携してまいります。				

事業風景写真



一般社団法人一関青年会議所 2019年度報告書

会誌・委員会名		役職		担当委員長						
組織進化推進委員会		委員長		坂下 立志						
例会月	12月	事業名		卒業式						
開催日時		開催場所		参加人数		決算金額				
2019/12/8		ペリーノホテル		対内	28 名	対外	16 名	合計	44 名	113009 円
事業目的				目的の検証結果						
【対外】 ・卒業生の青年会議所への想いや活動の功績また、現役会員の活動を見て、会員拡大へ協力的な気持ちを持っていただきます。 ・卒業生の青年会議所への想いや活動の功績また、現役会員の活動を見て、入会へ前向きな気持ちを持っていただきます。				【対外】 懇親会で会員拡大を行っている事をお伝えしたことで、OB先輩から入会候補者の情報を頂くなど、協力頂きました。 準備から手伝って頂くことで、本人からも本人を送り出した会社の代表からもオブザーバーも入会に対して前向きになったというお話を頂きました。 【対内】 式典の中で卒業生の答辞を始め、おおくの言葉を頂いたことで卒業生の想いを受け取り、今後の活動への意欲を持つことができました。 めることができないとアンケートに」回答頂いた方がいました。 事前や、当日の巻き込み（声がけ）等ができなかった結果だと思われます。						
【対内】 ・卒業生の想いを受け取り、今後の活動への意欲をより強く持っていただきます。 ・会員一丸となり卒業生を送り出すことにより、会員間の結束をより深めます。										
事業内容										
一関青年会議所は20歳から40歳までの団体であり、40歳を迎えた会員が毎年12月に卒業します。我々現役会員は卒業生への感謝の想いを伝え、卒業生から想いを託される場が必要となります。そのため一関青年会議所では毎年12月に卒業生に敬意と尊敬の意を表し、送り出すための卒業式を開催しております。 ・プログラムや映像で、卒業生のこれまでの経歴や事業をご覧いただきます。 ・卒業生への送辞や卒業生からの答辞を通じて、これまでの卒業生の活動や想いを聞きます。 ・会員全員での事業への取り組みを通じて、卒業生への今までの感謝の気持ちを表します。 ・会員間の結束を深めるため、多くの会員に役割を分担し事業を行います。										
反省点・次年度引継ぎ事項					委員長所見					
・メンバー向けの当日出欠とリハーサルの出欠を早めに確認すべきです。 ・事前に会場側に依頼・確認すべきです。 (弁当、横断幕、領収書、控室を2部屋、音響設備、謝恩会のプロジェクター) ・委員会としての準備物を確認し、リスト化するべきです。 ・挨拶(中締め、乾杯)をいただく方に依頼するべきです。 ・ムービー関係は最後の審議までに作成するべきです。 ・余興の依頼は最低1ヶ月前までに行うべきです。 ・メンバーやOB先輩の参加を促す方法を検討すべきです。 ・シナリオは読み手のことを考えて工夫するべきです。 ・当日の式典以外の役割もシミュレーションするべきです。 ・司会用のライトスタンドを準備するべきです。 ・役割のある人は必ずリハーサルから参加していただくべきです。 ・シナリオ、タイムテーブルなど資料をメンバー全員に配るべきです。					事前準備が遅くなったこともあり、多方面にご迷惑をお掛けしました。卒業生に喜んでいただきたいという思いで、役割分担を全うしてくれた会員の皆様のお陰で事業を遂行することができました。短時間の準備の中で抜けや漏れ、当日の不備など様々あり、改めて審議までの準備や事業当日までの準備の大切さを再認識しました。また、卒業生の青年会議所活動・運動に対する思いを聞くことができ、熱い思いを感じることができました。					

事業風景写真



〈出向者報告〉

公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会
東北ゼミナール委員会 委員
平間 正宏

2019 年度、東北ゼミナール委員会に出向させていただく機会を頂戴いたしました。東北各地 100 名近いゼミ生が集い 1 年間共に学ばせていただきました。東北 6 県で開催されたゼミナールは J C プログラムや実際に地域の課題をチームで見つけそれをどのようにアプローチしていくのか、地域をめぐり行うプレゼンテーションなど学びの多い研修となり、今後の J C 活動の成長の一助となる出向でした。参加者は、今後の理事長を目指す方々ということもあり、とても志の高いメンバーが集まっており、多くの刺激を得ることができました。また、私が考える青年会議所の一番魅力である多くの人材との交流というところでも、東北 6 県の同年代のメンバーとゼミナールを通して交流でいたことが何よりの宝となりました。また、ゼミナールで学んだ J C プログラムは、J C に関わっている人には必須のプログラムであり、組織等を学べる貴重なプログラムだと実感いたしましたので、ぜひ、機会があれば LOM でも実施できればと思いました。

東北の出向ということで、はじめは緊張や不安もありましたが、自己検査と刺激を頂ける出向でした。ぜひ、メンバーの皆様も、出向の機会がありましたら、最初は不安に思うかもしれませんが、必ず自分のためになることがありますので、チャンスがありましたら出向していただきたいと思います。このような、東北ゼミナールという貴重な機会に出向させていただき、ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
2019 年度いわて J A Y C E E アカデミー委員会担当副会長
阿部 徹

第 36 期いわて J A Y C E E アカデミーは、岩手県内から入会 3 年未満の 136 名ものアカデミー生を預かり、開講式と全 5 回の講座、閉講式と開催しました。

2019 年のいわて J A Y C E E アカデミーの最大の特徴は、講演と講座がセットとなっていることです。

「社会に新たな価値を生み出すイノベーターの育成」を大目的に掲げ、地域や社会で現に活躍をしているイノベーターの講師をお招きして講演をしていただきました。また、J C プログラムを活用した講座でアカデミー生には、J C の意義を学び、目的と目標の違いを明確にし、事業構築の手法を学ぶ機会を提供して参りました。アカデミー生は、9 月に花巻の地にて、自ら事業構築し、花巻の課題に向き合い、それぞれの手法においての事業実施させていただきました。また、その中で培った仲間との友情は、アカデミーが終わっても尚、堅い絆で結ばれていくと思います。

アカデミーとは、J C の意義を学び、J C を活用して自らを成長させる手法を学ぶには良い機会だと感じます。アカデミーで得た、知識と実績と友情をもとに、各地域で課題を率先して解決していく J A Y C E E になっていくことを祈念し、私もそのようになっていくことを決意して、御礼と出向報告とさせていただきます。1 年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
財政局 財政局長
千葉 晴一

2019 年度公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会財政局財政局長として出向させていただきました。

この1年を振り返ると、財政コンプライアンスのチェックはやって当たり前、出来て当たり前と言われるなかで、東北地区の財政規則審査会議や役員会、会員会議所と多くの会議に出席し情報を誰よりも得るように心がけ一年間活動をしました。孤独に感じるが多々ありましたが、各委員会の委員長や副委員長と財政コンプライアンスについて夜な夜な電話したこの一年間は私の貴重な経験となりました。この経験を今後の JC 活動にいかしていきたいと思います。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
ブロック大会実行委員会 委員
阿部 勇太

2019 年度公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会のブロック大会運営委員会に出向させていただきました。毎回の委員会に参加することはできませんでしたが岩手県内の青年会議所メンバーと一緒に活動でき、とても学ぶべきことが多い一年でした。ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
岩手の未来創造委員会 委員
阿部 真岐

前年度ブロック出向させていただき、岩手の未来創造委員会の委員を務めさせていただきました。一年を通し SDG s の推進に向け委員会活動を行いました。また、釜石で行われましたラグビーワールドカップでは、岩手の魅力発信と復興支援の感謝を伝えることを目的に、県内 13LOM から特産品を選出し、ブースを出店いたしました。

スケジュール調整が厳しくあまり参加できませんでしたが、岩手ブロックに携わり、学んだ事を今後の青年会議所活動に生かしていきたいです。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
連携推進委員会 委員
阿部 賢太郎

2019年、岩手ブロック協議会連携推進委員会に出向させていただきました。
宮古青年会議所から出向された松本徹委員長の下、JC カップ岩手県大会、ブロック大会における多子社会に向けた討議会、岩手県知事選挙公開討論会など様々な事業に参加させていただきました。LOMの事業もあり貢献出来たとは言い難いところですが、多くの事業を抱えながら精力的に計画を実現していく委員会の方々に沢山の刺激を受けました。
特に、水沢 JC から出向された佐藤陸副委員長が松本委員長と連携して事業を進める姿は自分が副委員長を務める際に模範としたいと思いました。
そして、花巻 JC の理事長を経験された遠藤敦副会長と共に事業に取り組めたことはブロック出向ならではの素晴らしい体験でした。事業を終えて、労っていただいた際の感激は今でも忘れません。
改めて、岩手ブロック協議会に出向する機会をいただいたことに感謝を申し上げます。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
総務広報委員会 委員
小山 裕貴

昨年度、岩手ブロック協議会 総務広報委員会に出向させて頂きました。
総務広報委員会では、岩手ブロック新春のつどい・役員会、会員会議所の運営・ホームページ、Facebook の運営・卒業式謝恩会を担当させていただきました。委員会への参加はあまりできませんでしたが、議事録 WEB を活用した広報活動等を通し、岩手ブロック協議会の活動の一助となっていればと思っております。次年度以降、出向の学びを LOM での活動に活かしていければと思います。
1年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 岩手ブロック協議会
LOM支援委員会 委員
千葉 太郎

昨年度、岩手ブロック協議会のLOM支援委員会に出向させていただきました。
事業とすればリカレント教育、県知事懇談会、会員拡大に関する事業でした。
台風の影響で日程変更になるなど大変ではありましたが、この経験をLOMで生かしたいと思います。

< 2 0 1 9 年度会員移動一覽 >

<新入会員> (6名) 平澤有士 君

村上秀樹 君

橋場智也 君

佐藤和昭 君

高橋 亮 君

菊池 亮 君

<退会会員> (3名) 加藤知英 君

松本幸江 君

小野寺裕香君

<卒業会員> (2名) 小野寺 康君

梁川 真一君

資料編

青年会議所とは

理念と目的

青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならないとを考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持つ若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激しあって、“若さ”がもつ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、“明るい社会”を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動を結集すべく、組織された団体が青年会議所（J C = Junior Chamber）です。

「われわれ J A Y C E E（青年会議所会員）は、社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者、相集い、力を合わせ青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との日本青年会議所綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

特 質

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特徴は、会員の“年齢制限制”にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年齢満 20 歳から 40 歳までであることを要し、“品格ある青年”でなければなりません。したがっていかに長期間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満 40 歳に達したら退会しなければなりません。この素晴らしい年齢制限制のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向かった前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロンクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、よりよき明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、われわれが今日の犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う、理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

組 織

会員は自分が住んでいる地域にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえにこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年2月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、50余年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほどの拡大発展をとげました。現在、日本の隅々にわたり、739都市で活動を続け、会員約46,000名を擁する、青年運動最大の団体となりました。全国739青年会議所はそれぞれ集まって、50ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会が集められ、それを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所（JCI-JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL）に加盟して、国際的な J C の運動の一翼をになって活動していますが、世界中では約19万人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

事業目標 “社会と人間の開発”

創立以来の“個人の修練、社会への奉仕、世界との友情”の青年会議所の三信条は、われわれの運動50余年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、“指導力開発と社会開発”であるとの事

業スローガンに固まってきました。われわれ会員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所日常活動の場を通じ、われわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の“指導力開発”とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中であって、市民が目標に向かって一致協力するように働きかけながら市民とともに進む、その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は“社会開発計画”事業を中心とする運動をもっています。会員一市民が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれのまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志により加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの運動、市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意志を認められなければなりません。

青年会議所の目標は明るい豊かな社会の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。

青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われまします。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続け、次々と新しい青年がこの団体を背負っていくでしょう。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求めて、その門戸を大きく開いています。

(2000 字 解説文)

J C 宣言とその解説

J C 宣言

～日本の青年会議所は～

創始の時代とは大きく異なり、多くのNPOやNGOが設立された今、J C及びJ a y c e e 一人一人が、我々はいったいどのなにものなのか、まさにその主体としてのアイデンティティを明確に示すことが求められているのである。

日本の全てのLOMが共通に使える“我々”(We a r e)それが、日本の青年会議所である。

～混沌という未知の可能性を切り拓き～

”混沌”とは”混迷”とは異なり、マイナスの状況を示すものではなく、それ自体は正負どちらにも展開する、エネルギーが充満したニュートラルな状態を表すものである。

現実としては、いつの時代、どの社会にも混沌はあり、それを切り拓き、新たな秩序作り出すことが出来るのが、我々青年である。とりわけ今の日本社会にこそ、その混沌をどのように切り拓いてゆくかが問題の本質であり、青年会議所の真価が問われているのである。

豊かさや平和への思考が無条件に信じられた時代を経て至った現在の”混沌”というべき状況を、先行き不安という悲観的な捉え方ではなく、青年の特権として、「未知の可能性」として前向きに捉え、それに向かっていくものこそ、21世紀変革の能動者の姿であろう。

～個人の自立性と社会の公共性が生き生きと協和する確かな時代を築くために～

ボランティアであると同時に経済人であることが、我々J Cの存在基盤である。そこには常に、個人と社会人、

それぞれのあり方の兼ね合いをどうするかという問題が存在する。個人としての自立が必要であることは言うまでもないが、それだけではなく、公共にいかに関与するかを考え行動することが必要なのである。

“自立”にもさまざまな考え方があり”公共”にもいろいろな立場がある。それらの多様性をまさに「自立性」、「公共性」として、青年会議所は幅広く包含しつつ、両者のより強くより高いバランスを求めなければならない。

生き生きと協和する確かな時代を築くために個人の自立性は度が過ぎれば、社会の必要を認めなくなり、社会の公共性のみを重んじれば、個人はもはやそのための歯車に過ぎなくなる。

「生き生きと協和する」とは、そのような極端な偏りが生じないように、それぞれの意義を認め、それぞれを生かすことを意味する。そのバランスを取ることによって、”混沌”から”確かな時代”を築くことになるのである。

～率先して行動することを宣言する～

これまで述べてきた目的を達成するために、青年会議所がすべきことは、それを観念や理想として提示するだけではなく、「率先して行動すること」こと、つまり様々な地域において、地域のリーダーとして具体的に行動することである。

自ら進んでの行動こそが我々の使命であり、その存在意義なのである。

「宣言」は、それ自体が J C の外部に対しても守らなければならない、守るための努力をしなければならない約束の表明である J C 宣言が「宣言」という言葉のみに終わらないようにするためには、その成果、評価ばかりを求めていくのではなく、それを踏まえた実践を積み重ねなければならない。

それでこそ、「宣言」としての本当の意味を持つのである。

J C 三信条とその解説

トレーニング（個人の修練）

サービス（社会への奉仕）

フレンドシップ（世界との友情）

■ 1950年5月1日、現在の日本青年会議所の前身とも言える J C 懇談会が開かれ、J C 運動の行動綱領として上記の3つが採択された。

■ つまり、J C 運動なるものは、まず若い人びとが集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会にサービスするものであって、さらにそのトレーニング・サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。

■ この三信条は非常に単純ではあるが、ここに今日の指導力開発の萌芽を求めることができる。この機会に、その代表的な解釈を述べておく。

「三信条は J C 生活規範だ」

第1の解釈は、「3つの信条は分けられない。有機的につながっている」という立場である。3つの原則が同じレベルにあるとする考え方だ。

この見方は、J C 三信条がキャッチフレーズとして誕生した当時のいきさつを考えればもっとももうなずけることである。

東京 J C の創立20周年記念誌には、「・・・・・・この J C 運動なるものは、まず若い人々が集まって自己啓発、修練をするものであり、ついでその力を用いて地域社会へのサービスをするものであって、さらにそのトレーニング・サービスを支える力として全員全体を貫くフレンドシップがある。一方、フレンドシップを培うことも、サービスに徹することも、またひとしくトレーニングにつながるものである。と理解されたのであった。」

と J C 三信条採択時のようすが記されている。

第 2 は、「奉仕」を強調する立場である。「奉仕を実践する過程で、修練と友情が達成される」とする。

森下泰元会頭は、J C の目的について、「J C の目的は、知識ある青年たちの“社会的権威の実現”にあり、それは“対社会的義務”でさえある。社会的権威の実現、すなわち“社会奉仕”の内容は歴史的社会的に決定せられその過程において修練と友情は達成される。」と、第 2 の立場を代表して述べている。

第 3 は、「修練」を強調する解釈である。「J C 3 信条の奉仕・修練・友情は同レベルのものではない。修練のための奉仕であり、修練場としての友情である」とする立場に立つ。

1963 年に発刊されたマニュアル『L T - B o o K』には、第 3 の立場を代表して、次のような 1 節がある。

「・・・・・・我々周知の 3 つの路線“トレーニング”“サービス”“フレンドシップ”は、実は並列的等価のものではなくて“トレーニング”に重点があることは明らかで、・・・・・・青年会議所活動とは“社会のためになる様な行動を通じて行うリーダーシップ・トレーニング”のことだ。」

用語説明

① J C

J U N I O R C H A M B E Rの頭文字をとったもので
組織としての青年会議所の意。

② J A Y C E E (J a y c e eでも可)

青年会議所会員個々人のこと。(注：但し、この使い分けは、英語圏のNOMではそれほど厳密ではない。)

③ J C I

J U N I O R C H A M B E R I N T E R N A T I O N A Lの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズリー州セントルイスにある。

④ N O M (ノム)

N A T I O N A L O R G A N I Z A T I O N M E M B E Rの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。
例えば日本青年会議所は、国政青年会議所の中の1 N O M (国際青年会議所)である。

⑤ L O M (ロム)

L O C A L O R G A N I Z A T I O N M E M B E Rの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地会員会議所の意。現在、日本青年会議所の中には6 9 7 L O M (各地会員会議所)がある。(2 0 1 7年1月)

⑥ 地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック及び各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告や連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所は1 0区分されており、1 0の地区会員会議所があり、主な事業としては、各地区会員大会の主催がある。

※DOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑦ ブロック協議会

日本青年会議所及び地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所及び地区協議会に報告連絡する為の機関である。

現在、日本青年会議所には4 7ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

※BOMといった表記が一部使われていますが、誤りです。

⑧ J Cデー

日本において最初に青年会議所が開始された1 9 4 9年9月3日を記念して、毎年9月3日をJ Cデーと称している。

アクティブシチズンデー

毎年1 2月1 1日には、J C I本部において、本年度と次年度J C I会頭出身国の国旗が入れ替わる日となっており、2 0 1 0年の世界会議大阪大会において、正式にその日の名称が決められた。なお、このアクティブシチズンとは、行動する市民と訳すことが出来、日本J Cの会員のJ C活動こそがJ A Y C E Eとしてあるべき姿と考えられて、日本J Cのメンバーのことを示すとも言われている。

⑨ 承認伝承伝達式

新規に設立を承認されたJ Cに対し、日本J Cからその承認証が正式に伝達される時の式典である。

⑩ スポンサー J C

青年会議所未設立の地域の青年有志にお働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

※一関青年会議所のスポンサー J C ・ ・ ・ 盛岡 J C

※水沢 J C、大船渡 J C のスポンサーが一関 J C

⑪シスタ J C

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に所属する青年会議所の相互間の親善と友好の為に、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のことで、姉妹 J C ともいう。

⑫世界会議（ワールド कांग्रेस）

国際青年会議所が主催する年 1 回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与・翌年度の開催地の決定などが行われる J C I 最高の意志決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバスケットなどがプログラムされている。第 1 回 J C I 会議は 1 9 4 6 年パナマで開催された。

⑬エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟 NOM を地域別に 4 つにわけている。アフリカ・中近東地域（旧エリア A）、アジア・オセアニア地域（旧エリア B）、南北アメリカ地域（旧エリア C）、ヨーロッパ地域（旧エリア D）の各地域で年 1 回 5 月から 6 月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ASPAC（アジア太平洋地域コンファレンス—ASIA PACIFIC AREA CONFERENCE）という名で親しまれている。

⑭直前会頭・直前理事長

単年度制をとっている J C では、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、LOM の前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑮日本 J C シニアクラブ

日本 J C シニアクラブは、J C 卒業生同窓会として相互の親睦を図るとともに、現役活動を陰ながら援助しようという目的で 1 9 6 0 年設立された。J C 卒業生ならだれでも入会出来る。

⑯セネター制度（SENATOR）

J C 終身名誉会員制度のことで、J C I 運動に多大なる貢献をしたメンバーを LOM が承認・推薦し、NOM 及び J C I の認証を得てその資格（修身番号）が与えられる。与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑰出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出していくメンバーのこと。

⑱「WE BELIEVE」

日本 J C は、対外的・対内的な広報活動の強化と、拡充を図るために、月刊誌「WE BELIEVE」（毎月 1 回 1 5 日発行、A 4 判）を全会員に配布している。

⑲セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑳シンポジウム

語源はギリシャ語といわれて親しい者同士がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われないが、各報告に対する質問は許される。

㉑パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会義である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

②コロッキー

パネルディスカッションと同様の形式による会議法で、途中専門家が追加出席して意見を述べ、討論が一方向的な方向へ行かない様にコントロール出来る。

③バスセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバズセッションという。

④ブレンストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイディアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。（集団的創造力開発の方法）

⑤フィリップ 6 6 方式

バズ形式に似たもので、多人数の場合小グループ（6 人）に分け、6 分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。6 6 式討議ともいう。

⑥K J 法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査員関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後に、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

⑦ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「在不在者の権利」の4つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不審議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の4つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

⑧コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約、調整し、会議を進行させる担当者。

⑨アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させる為に助言を行う講師のこと。

⑩パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

⑪C D

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

⑫L D

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

⑬M D

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

⑭L I A

リーダーシップ・イン・アクションの略で、L Dが発展拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで、実践指導力開発と邦訳されている。1968年のマルデルプラタ世界会議でJ C I 恒久プログラ

ムに採択された。

③⑤HD

ヒューマン・ディベロップメントの略で人間力開発のこと。

③⑥AOY

アクセント・オン・ユースの略で、青少年開発のこと。その地域社会に住む青少年を参加させて、地域社会の開発の為に良き道を見出すよう青年達を助ける方法を提供するプログラムである。1970年にダブリン世界会議でJCI恒久プログラムに採択された。

③⑦三分間スピーチ

LD手法の一つで、電話一通話の時間内即ち三分間で自己紹介から始まり、テーマにそったスピーチを完了させる方法。

③⑧FC構想

フューチャークラブ構想の略で、青少年が手をつなぐ運動のこと。地域社会にある既存の青少年グループ。会員自身の子弟、会員の経営する企業内の勤労青年などを始動団体として、明日の日本の為の広場づくりを進める働きかけのことである。

③⑨カテゴリー

本来の意味は、同一性のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

④⑩チャーターメンバー

各地青年会議所会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

④⑪スリーピングメンバー

資格を持ち、活動が義務付けられているにもかかわらず、その活動及び例会・総会などにも積極的に参加しない会員のこと。

④⑫アクティブメンバー

スリーピングメンバーの反対の意。全体の中の個人・個人であっての集団であることの自覚を持ち、そして責任を果たし、社会開発と自己開発に挑戦し、活発に行動する会員のこと。

④⑬ガイダンスメンバー

オリエンテーション、委員会等でガイダンス勉強期間中の新入会員の呼称。

④⑭アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。そして出席の証しをアテンダンスカードと呼ぶ。

④⑮エントリー

褒賞獲得や、または大会誘致等々の為に立候補申請することをいう。または出向者の推薦及び登録のことをさす。

④⑯アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

④⑰マニュアル

手引書のこと。日本JCには組織に関するもの、運営に関するもの、事業に関するもの等多数のマニュアルを持っている。

④⑱人間力大賞（旧TOYP大賞）

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方をもちそれを実践し、まちの地域市民として活動を続けている将来性のある若者（TOYP＝傑出した若者）の功績を讃え、その運動を広く紹介するとともに、そこから学ぶことを目的としている。

④9褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その名誉を全国に発信するとともに、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に地震や誇りを与え、メンバーのモチベーションや未来の青年会議所運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。

⑤0プロボノ

ラテン語の P r o B o n o P u b l i c o（良い公共のために）を略した言葉。J Cにおいては「公共の利益のためのスキル提供による無料奉仕」と定義し、社会人が仕事を通じて培った専門的知識やスキル・経験やノウハウなどを活かして社会貢献することを意味する。

新入会員のために

新入会員の心得

（１）新入会員の心得

1. 充実したJ Cライフをおくる為に、J Cをよく理解しなければならない。
2. 常に自分の考えをわかり易く表現することができなければならない。
3. 常に若さと活気に溢れ、笑顔を忘れてはならない。
4. 会員としての責任感を持ち、積極的に参加しなければならない。
5. 進んで難しい仕事に当たり、責任をもって完成させなければならない。
6. 議事法ほか会議の進め方をマスターしなければならない。
7. 完全な議事録を作成できなければならない。
8. 会議の議長を務めることができなければならない。
9. 与えられた時間で自分の意見をまとめ、発表できなければならない。

（２）会員の心構え

1. 常に高い目標を持ち、その目標に向かって努力しなければならない。
2. 自分自身を識り、向上させなければならない。
3. 目的に向かって計画的に自己を管理しなければならない。
4. 特に自分自身の健康管理をしなければならない。
5. 確固たる信念と強い意思のもとに、目標に向かって直ちに行動を開始すること。
6. 一日一度は自分を見直すこと。
7. 地域高知印の一人として、地域社会の活動に進んで参加しなければならない。
8. 正しいJ C運動を地域社会に広めなければならない。

（３）J C会員としてのマナー一人ひとりの言動や行動が多くの会員あるいは組織の品位を傷つけることから、会員としてのマナーを厳守しなければならない。

1. 品格ある青年として行動する。
2. 常に礼儀正しい服装をし、必ずバッジをつける。
3. 常に他人に対し、不快の念を与える言動を慎む。
4. 常に他人の話を聞く、その権利を尊重する。
5. 諸通知の出欠ハガキは、すみやかに必ず返信を出す。なお、出欠の変更又は遅刻の場合は、必ず事前に事務局まで連絡する。
6. 諸会合には定刻に出席し、時間の無駄使いをしない。また、諸会合に出席した時は、必ず署名登録をする。

7. 発言する時は、挙手して上衣のボタンをかけ、所属および氏名を明確に述べる。
8. 諸会合では、私語・雑談を慎む。
9. 先輩には敬意を示し、挨拶をすると同時に名刺を交換する。
10. 会員同士の付き合いには、相手の人格を損なわないように敬意を示し、笑顔で握手する。